

平成19年度

博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

はじめに

博物館新館は、平成19年11月1日、那覇市おもろまちに博物館と美術館の複合施設として開館しました。新館では、首里の博物館時代から続いてきた総合博物館としての資産をもとに、新しい時代に対応して、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく発展させ、新世紀を迎えるにふさわしい開かれた博物館を目指しています。

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充足させる、地域の中軸施設であることが求められています。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館しています。このような来館者の要求に、より多くこたえていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきました。

教育普及活動では、博物館が新施設になったこともあり、これまでの首里の博物館で行われてきた活動の中でも、より教育的支援の必要な分野となる、学校の受入れに関連する取組みに力を入れてきました。学校連携事業では、新館に適合させ、博物館ボランティアによる展示ガイドや誘導・体験サポート等の学校団体に対する支援体制の強化を推進し、中学生向けの『博物館学習ノート』を作成いたしました。また、博物館文化講座では、新館開館記念展開関連講座や新館展示に関連した文化講座を実施しました。さらに、体験学習教室では、「化石のレプリカをつくろう」、「しっくいシーサーをつくろう」「木のおもちゃをつくろう」など、モノづくりを通して、沖縄の自然や先人の知恵を学ぶ機会を設定しました。その他にも、新館開館記念展の「人類の旅」関連の絵画募集、関連ワークショップを実施しました。

当博物館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室に参加された皆様から、博物館を通して、沖縄の自然や歴史及び伝統文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。

博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成20年3月

沖縄県立博物館・美術館

館長 牧野 浩 隆

博物館の教育普及活動概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。また、二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取り組みました。

学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施しました。一つは、各学校の計画による団体観覧受入れで、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館から提供できる内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

また、児童生徒が、展示資料を通して、調べ学習を行う際に、興味を引き出す素材として『博物館学習ノート』（ワークシート）を作成しました。ノートを活用した資料の観察を通して、見えにくいところまで興味関心を広げられるものとなっています。今年度は、中学生向けを作成し、出来上がった冊子を各学校へ配布します。また、学習ノートの各ページは、博物館のホームページにも掲載することで、多くの方が利用できるように準備していきます。

体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としました。博物館の各分野（自然史、人類学、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類学、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、展示解説、(実技指導)、(現地研修)などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。()の内容は、本年度の実施はありませんでした。

展示解説会・館内見学会

博物館の展示内容に関する資料等の解説を、学芸員の広い視点から分りやすく解説しました。新館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に配置されているかを理解し、総合博物館の資料のつながりを知る機会としました。また、館内見学では、展示準備室などのバックヤードの施設を見学しました。

ボランティア養成事業

博物館では、県民の自己啓発や学習の発表の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入しています。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となりました。

ふれあい体験室

博物館の展示室の手前にある「ふれあい体験室」は、27種のキットを準備してあります。これらは、展示と関連させ、ふれることにより、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットはパズルのように組み立てるものなど、操作することによって、答えが見えるような仕組みとなっています。ふれあい体験の中から、「沖縄の豊かな自然」や「先人の知恵」を学ぶことができます。

フリーパス

県内の各小中学生に、新館の開館 施設を身近に感じてもらう 常設展は無料入館、ということを確認してもらうために、フリーパスの制作を各学校に依頼しました。

その他

新館開館記念展への協力

資料の貸出

目次

学校連携事業	
1 学校団体観覧	1
(1) 博物館を利用して学ぶ	1
(2) 学習プログラムを組み立てる	3
(3) 学習プログラムの内容（学習の流れ）	3
(4) 博物館学習の打合せ票	4
(5) 平成19年度学習プログラム（実践例）	5
2 博物館利用の手引き・博物館利用団体受入れ要項	14
(1) 博物館利用の手引き	14
(2) 平成20年度 博物館利用団体受入れ要項	15
(3) 沖縄県立博物館・美術館団体受付申込書・利用許可申請書	16
3 博物館学習ノート	18
(1) 『博物館学習ノート』作成に当たって	18
(2) 『博物館学習ノート』作成要項	20
(3) 『博物館学習ノート』作成委員	21
(4) 『博物館学習ノート』作成の流れ	21
(5) 会議	22
(6) 打ち合わせ・議事録	24
(7) 『博物館学習ノート』モニタリングの様子	30
博物館体験学習教室	
博物館体験学習教室実施要項	31
1 化石のレプリカをつくろう	32
2 開館記念展関連事業「勾玉をつくる」	37
3 木のおもちゃをつくろう	41
4 しっくいシーサーをつくろう	49
5 博物館探検	53
博物館文化講座	
博物館文化講座実施要項	54
1 第365回「港川人の来た道」	61
2 第366回「動物化石から見た港川人のいたころの沖縄」	61
3 第367回「沖縄人のルーツを探る」（対談1）	62
4 第368回「化石の宝庫・沖縄の可能性」（対談2）	62
5 第369回「博物館新館の展示物をつくる！～染織品復元を例にして～」	63
6 第370回「『首里・那覇港図屏風』から見た近世の琉球社会 - 港町・交易・紛争 - 」	63
博物館展示解説会等	
博物館展示解説会実施要項	64
博物館展示解説会・館内見学会の様子	65
ボランティア養成事業	
1 平成19年度博物館ボランティア養成講座実施計画	66
2 博物館ボランティア活動実施要項	67
3 ボランティア養成講座	68
4 ボランティア通信	70
ふれあい体験室	
1 ふれあい体験室の概要	76
2 体験キットの種類	77
3 ふれあい体験の利用状況	78
沖縄県立博物館・美術館のフリーパス	79
その他	
1 開館記念展関連事業「私が考える港川人」図画作品募集	82
2 博物館開館記念ワークショップ ワラザン&マーニ細工	88
3 資料貸出	89

学校連携事業

1. 学校団体観覧

(1) 博物館を利用して学ぶ

はじめに

博物館では、子供から大人まで、生涯学習の一環として、楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では、“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することができます。博物館の各展示室には、郷土について知るための資料が、分かりやすく展示されており、来館者は、観覧したり、体験することで、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに、地域について知ることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ、結びつけることも可能です。

学校が利用する場合

- ・学校職員と博物館職員の互見と調整により、双方が連携して教育プログラムを作成することができます。
- ・学習内容によっては、体験を取り入れるなど、支援方法を工夫します。
- ・博物館の資料を学校内で活用する方法として、資料（民具）貸出しがあります。
- ・博物館には、情報センターや相談室があり、学習内容の研究を共同で行うことができます。

博物館を学習活動に活用するための手順

i 学習活動計画を立てる

博物館利用の全体計画を立てます。学校の教育課程や行事等を考慮して、博物館をどの段階に利用することが有効かを考えます。

- ・導入で活用する。
- ・展開で活用する。
- ・まとめとして活用する。

博物館の相談室では、これまでの学校の利用計画を参考にすることができます。

ii 日程の調整

- ・博物館でオリエンテーションや体験実習を行うための施設として、実習室（40名）講座室（110名）、講堂（210名）があります。
- ・博物館は、博物館・美術館の複合施設であり、指定管理者（文化の杜）は施設を有料で貸し出すことから、施設利用の予約、免除申請書の提出が必要です。
- ・施設の予約・日程調整を博物館の情報センターで行い、施設の下見から学習内容の調整は、博物館教育普及担当とともに行います。
- ・規模の大きな学校にオリエンテーションを行う際は、一度には施設に入りきれないため、二回に分けて入館するなどの工夫が必要です。

指定管理者

指定管理者とは、「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法 第244条の2）

博物館・美術館においては、文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

iii 博物館下見、打ち合わせ

- ・下見では学習に必要な展示資料や以下の施設の確認をします。
(トイレ、集合場所、常設展示室、実習室、講座室、講堂、屋外展示等)
- ・来館日、来館時間、生徒数、当日の日程、引率者、父母協力者、学習形態等の確認をします。
- ・学習の「目標」「めあて」の確認をします。
- ・学習の展開方法(学習プログラム)を決めていきます。
- ・過去に博物館を利用した学校の「しおり」等の参考資料閲覧も出来ます。
- ・特別支援学校への音声資料等の、事前事後学習への協力も出来ます。
- ・筆記用具と、筆記の際の支え(探検バッグ・ファイル)となるものの確認をします。
- ・駐車場とバスの入口の確認をします。
- ・雨天時の傘等の対応を確認します。
- ・博物館への飲食物持込み(IPMの考え方により)等の禁止事項確認をします。

博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。飲み物や食べ物の館内持込は、ご遠慮ください。遠足等の行事の際にも、荷物を車(バス等)で管理などの配慮をお願いします。

IPM (Integrated Pest Management 総合的有害生物管理)

耕種的、生物的、化学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減少させ、かつその低いレベルを持続させるための害虫個体群管理のシステムです。

iv 実施計画を立てる

- ・博物館からの情報提供をもとに、学校主体で計画案作成します。
- ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
- ・必要に応じて、ワークシート等の作成に協力します。
- ・父母引率の際には、博物館展示室での配置等の細案を作成してください。
- ・観覧終了時の博物館における「まとめ」は、学校の職員で進行してください。
(児童生徒挨拶を含む)
- ・博物館のボランティアは、学習プログラム決定後に依頼します。2週間以上前の募集期間が必要です。(急な依頼には対応できません。)
博物館利用のマナーについては、学校でも事前指導できるよう計画してください。

ボランティア

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティアを養成しています。現在は、誘導ボランティア 展示ガイドボランティア 体験サポートボランティアがあります。(詳細は、次項学習プログラムの流れ参照。)

v 博物館において学習活動を展開する

- ・来館当日の学校・博物館職員のミーティング(オリエンテーション中)で、時間の変更の有無、スタッフの状況内容変更の有無等の確認をします。
- ・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように博物館・指定管理者・ボランティア、教師・父母が連携して支援していきます。
- ・館・学校のそれぞれのスタッフに声かけをしながら、学習を展開できるように支援します。
- ・体験では、子供たちに資料に触れる場を提供していきます。

vi 博物館における学習を次の学習に生かす(事後指導の例)

- ・博物館での活動を通して、分かったこと疑問点を確認する。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査する。
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進する。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定する。
- ・次の課題について協議する。

(2) 学習プログラムを組み立てる

- ・学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- ・学習プログラムとは、学校が団体に博物館を利用する際に、関係する施設・職員、または、学習内容等を組立てた計画です。
- ・学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開等を、学校の実態に合わせて編成します。
- ・学習プログラムの企画調整は、下見の際に県職員の教育普及担当が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- ・教育普及担当との下見・調整では、過去の計画案や、展示資料の紹介などを行います。
- ・学校が博物館を教科の時間として活用する場合や、学校行事、サークル活動等さまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- ・学習プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
- ・教員・父母協力者の博物館での配置は、博物館と協議しながら決めていきます。
- ・先生方と行う下見・調整は、プログラムの作成のために実施します。
- ・学習プログラムは、当日の天候や渋滞等による遅れなどといった、学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。

(3) 学習プログラムの内容(学習の流れ)

オリエンテーション

- ・はじめ
運営担当の職員(指定管理者)が、司会進行をおこないます。
- ・博物館紹介(映像)
マナーを含めた映像を放映します。「みゅう爺」と「アム」というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設・展示室の紹介を行います。10分の完全版と6分の縮小版があります。
- ・昔のくらし関連資料(映像)
日本民芸協会が昭和14年ごろに、沖縄調査で撮影した映像を放映できます。『琉球の風物』と『琉球の工芸』という二種類の画像が準備できます。本来は、双方ともに16分ほどの時間の映像ですが、観覧や体験の時間を考慮し、放映を短縮することもできます。
- ・本時の「ねらい」の確認
事前の下見調整において確認された内容の、「めあて」(目標行動)を司会が読みあげます。博物館での活動を児童・生徒と一緒に、読み合わせて確認をします。
- ・ボランティア紹介
当日の学習プログラムを支援する博物館ボランティアを、児童・生徒に紹介します。体験サポートと展示ガイドボランティアは、展示室や実習室で紹介することもあります。

博物館ボランティアによる支援

- ・誘導ボランティア
博物館の総合展示では、通史軸を中心とした基幹動線があります。また、総合展示の周りに配置された部門展示室は、自由動線となっています。広い博物館の展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する活動をお手伝いします。誘導ボランティアは、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

・展示ガイドボランティア

展示ガイドは、展示室で資料の解説を行う活動です。学校からの依頼によって対応しますが、現在（H20 .4）は、新館におけるボランティア養成中のため、全ての要望には応じられないことを、ご理解ください。また、ワークシートを学校独自に準備する際は、ボランティア側も事前に把握しておく必要があります。必ず前日までに送付してください。

・体験サポートボランティア

体験サポートは、体験的な学習の中で、民具体験を支援する活動です。現在(H20 .4)は、特に4年生の社会科に対応した、内容を推進しています。体験内容には、運搬に関する体験、清掃・洗濯、着衣等の昔の暮らしの体験があります。この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います。（教師や父母の引率者の参加協力も必要です。）

観覧・体験のサイクル

観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。学校の児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数の場合は、体験学習を20～30分の時間で行うクラスと、観覧を先に進めるクラスを設定しています。体験の際のグループ構成は、学校側で作成していただきます。

まとめ

一日の観覧・体験が終了した際に、博物館のロビーや入り口近くのピロティーで「まとめ」を行っています。「まとめ」の時間は、基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら、進行しています。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアスタッフも一緒に参加して、「まとめ」を行います。オリエンテーションで、児童生徒を受け入れた職員が、博物館観覧の「ねらい」を中心に、児童生徒に自己評価してもらいながら、博物館での活動を取りまとめしていきます。

(4) 博物館学習の打合せ票

平成 年 月 日 (曜日)	
対応者 ()	
項 目	打 合 せ 内 容
来 館 予 定 日	年 月 日 (曜日)
来 館 予 定 時 間	AM/PM : ~ AM/PM :
学 校 名	
学 年	
学 級 数	
生 徒 数	
引 率 者	
電 話 番 号	
博物館学習のねらい	
学習内容と配分時間	
学校からの要望	

(5) 平成19年度学習プログラム (実践例)

文化：指定管理者 (文化の杜)
 (人名)：ボランティアスタッフ
 ()：カッコの空欄はボランティアなし

小学校 4 年生

社会科 昔のくらしとまちづくり

2007 / 1 / 23(水)・24 (木)

9 時30分～11時00分

那覇市立金城小学校 4 年生

児童 23日106名 (3 クラス父母13教師 4 人)

講座室・民家・実習室・展示室使用

24日 70名 (2 クラス父母11教師 2 人)

ア 博物館学習の目標

- ① 地域の人々のくらしの中で、古くから伝わる道具について調べる。
- ② 古い道具が使われていたころのくらしの様子や地域にのこる文化財や行事について調べ、人々の生活の変化や人々の願いについて考えるようにする。

イ 指導目標

博物館見学と民具体験により、昔から伝わる道具について理解し、実物資料や映像資料等による五感を通じた感受の中から、先人のくらしの様子や生活の知恵について心を揺さぶられ、郷土のことについてさらに追求していこうとする態度を養う。

ウ 目標行動

- ① 地域の人々のくらしの中で、古くから伝わる道具について調べる。
- ② 古い道具が使われていたころのくらしの様子について調べ、人々の生活の変化について考えるようにする。

エ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができる。
- ② 博物館での観覧順を守ることができる。
- ③ 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
- ④ 民具に応じた体験から用途を知ることができる。
- ⑤ 体験で感受したことをまとめることができる。
- ⑥ タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑦ ワークシートやメモにより記録を残すことができる。

⑤ ④

G ⑦ ⑥ ③ ② ①

オ 体験・観覧順

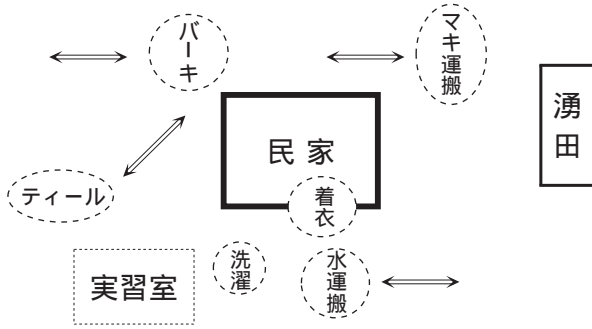
誘導ボランティア

時間	30	5	5	30	
23日	1 班(53人) 民家 (民具体験)	自然史	総合	民俗	(金城)
	2 班(53人) 自然史 総合	民俗	民家 (民具体験)		(仲村)
24日	1 班(35人) 民家 (民具体験)	自然史	総合	民俗	
	2 班(35人) 自然史 総合	民俗	民家 (民具体験)		

カ 授業の展開例

時(分)	内 容	博 物 館	教 師	児 童 生 徒
10	オリエンテーション (文化・安元)			
	はじめ 担当者自己紹介	代表者打合せ		着席
	3 マナー (口頭にて)		担任・副担任の配置など	
	6 『琉球の風物』(昭和14年頃の映像)	放映		
	本時の目標	目標行動を確認		
	観覧順番の確認	学級単位での順番確認		
	誘導	誘導・サポートスタッフ 紹介		
30	民具体験			
	1 組「民具体験」			
	資料名解説 (文化・安元)	先程の映像で気づいたことはありますか。		はだし・着物等々
	資料配置説明	4 班による体験		
	5 体験内容説明			
	20 体験			民具体験
	・運搬 パーキ (喜屋武)	民家に準備		
	・運搬 オーダー (具志堅)	民家に準備		
	・運搬 (平田)	外に準備 (水の運搬)		
	・着衣 クバンヌー (久保)	民家に準備		
・洗濯 (桑江)	外に準備			
感想まとめ (文化・安元)	写真と名称 (ガンシナ・クバガサ.....)			
5 移動 観覧へ				

10	5	2班観覧			
		「自然史と総合」			
	自然史展示室			学校職員による先導・説明	
	移動				
	5	総合（儀間真常）			学校職員による先導・説明
25	5	民俗展示室			
		民俗ガイド（松川潤）（松川）（徳嶺）			
		資料確認			
		説明			
5	5	移動 体験へ			
		まとめ（文化・安元）			
		ワークシート記入			



洗濯体験の様子

小学校5・6年生

社会見学

14時00分～16時00分（120分）

2008/2/8(金)

児童 名（2クラス）

講座室使用

那覇市立壺屋小学校5・6年生

教師 2名 引率父母 4

ア 社会見学のねらい

- ① ふだん見ることができない貴重な芸術品や美術品に触れ、その良さを知る。
- ② 見学を通して、故郷沖縄の歴史や文化に興味・関心を持つ。
- ③ 公共の場所での見学を通して、きちんとした礼儀及びマナー等を身につける。

イ 指導目標

博物館見学により、実物資料や映像資料等に接する中から、豊かな自然や文化遺産があることを理解し、その良さに心を揺さぶられ、郷土のことについて、さらに追求していくこうとする態度を養う。

ウ 目標行動

博物館に展示されている資料を見て、分かったことや疑問に感じたことをメモし、沖縄の自然や文化についてまとめることができる。

エ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができる。
- ② 博物館での観覧順を守ることができる。
- ③ 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
- ④ 展示場所により分野展示の内容が違うことを指摘できる。
- ⑤ タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑥ 観覧後、学校で記録を残し、発表することができる。

G ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①

オ 観覧順路

誘導ボランティア

時間	20	15	15	15	15	10	
5年	自然	考古	美工	歴史	民俗	シマの自然とくらし	(座安)
6年	民俗	シマの自然とくらし	自然	考古	美工	歴史	(宮平)

カ 授業の展開

時	内 容	博 物 館	教 師	児 童 生 徒
10	オリエンテーション	職員自己紹介	代表者打合せ（副担任の配置等）	
	マナービデオ放映		児童着席指示	講座室着席
	画像の視聴	施設案内画像		
	本時の目標	博物館観覧の目標確認		
	観覧順番の確認	博物館の観覧順確認		

	誘導	誘導職員紹介	担任学級先導	展示室移動
			誘導員は、後方支援	
105	5年		学級担任の先導	
	自然 考古 美工 歴史 民俗 シマの自然とくらし 総合	誘導()	総合は自由見学指示	
	6年			
	民俗 シマの自然とくらし 自然 考古 美工 歴史 総合			
5	まとめ			
	集合	学芸員と誘導職員集合	点呼	高倉前集合

小学校 総合的な学習の時間

2007/12/18(火)

13時00分～15時00分(120分)

講堂使用

那覇市立石嶺小学校5年生 生徒144名(4クラス) 教師 5名

ア 主題 「地域の歴史と文化」(首里地区の歴史を知る)

イ ねらい

- ① 沖縄の歴史や文化に関して分かったことや、疑問に感じたことを記録し、さらに追求し調べようとする態度を育てる。
- ② 沖縄に関する情報を収集し、課題解決に向けて探求する中で問題に気づき、進んで解決しようとする力を育てる。
- ③ これまでに分かったことを、博物館資料と関連付け、総合的にとらえていく力を育てる。

ウ 指導目標

- ① 児童自らの課題設定や問題解決に結びつくように、展示資料を観察する。
- ② 児童が自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する意欲を支援する。
- ③ 自ら設定した課題を、解決するために模索させることで、疑問点に気づき、調査方法を考え、行動することの大切さを理解させる。

エ 目標行動

博物館に展示されている資料を観覧し、分かったことや疑問に感じたことをメモし、沖縄の歴史、文化、自然について調査する見通しを立てることができる。

オ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができる。
- ② 博物館での観覧順を守ることができる。
- ③ 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
- ④ 展示場所により分野展示の内容が違うことを指摘できる。
- ⑤ タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑥ ワークシートやメモにより記録を残し、今後の見通しを立てることができる。



カ 観覧順

誘導ボランティア

時間	15	15	15	15	
1組	シマの自然とくらし	自然史	古琉球	民俗	(知念)
2組	民俗	シマの自然とくらし	自然史	古琉球	(米田)
3組	古琉球	民俗	シマの自然とくらし	自然史	(西川)
4組	自然史	古琉球	民俗	シマの自然とくらし	()

キ 観覧展開 (例)

時(分)	内 容	博 物 館	教 師	児 童 生 徒
15	オリエンテーション (文化:安元)	職員自己紹介	代表者打合せ (副担任の配置等)	
	博物館紹介 (CD)	画像放映	児童着席指示	講座室着席
	本時の目標確認			
	ボランティアスタッフ紹介	誘導職員紹介	担任学級先導	展示室移動
	移動		誘導員は、後方支援	
	1組 シマ 自然史 古琉球 民俗 (60分)		学級担任の先導	
	シマ(文化:安元)			
	民俗ガイド (我謝)(宮良)			
	総合ガ古琉球 (宮城)			

60	}	自然 ()			
		2組 民俗 シマ 自然史 古琉球 (60分)			学級担任の先導
		3組 古琉球 民俗 シマ 自然史 (60分)			学級担任の先導
		4組 自然史 古琉球 民俗 シマ (60分)			学級担任の先導
30	}	自由観覧			
		展示されていることについて概要をとらえる			
		調査の方法について話し合う			
10	}	まとめ (文化)			
		観覧のマナーが守れたか確認			
		ワークシートにまとめる			
		集合			

中学校 総合的な学習の時間

2007 / 11 / 27(火)

14時00分～15時30分 (90分)

豊見城市立伊良波中学校 1年生

生徒215名 (6クラス)

教師 10名

講座室 使用

ア 主題 「地域の歴史と文化」

イ ねらい

- ① 沖縄の歴史や文化に関する課題を発見し、分かったことや、疑問に感じたことをさらに追求し調べようとする態度を育てる。
- ② 沖縄の歴史や文化に関する情報を収集し、課題解決に向けて探求する中で問題に気づき、進んで解決しようとする力を育てる。
- ③ これまでに身につけた学習内容を、博物館資料と関連付け、総合的にとらえていく力を育てる。

ウ 指導目標

- ① 児童自らの課題設定や問題解決に結びつくように、展示資料を観察する。
- ② 児童が自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する意欲を支援する。
- ③ 自ら設定した課題を、解決するために模索させることで、疑問点に気づき、調査方法を考え、行動することの大切さを理解させる。

エ 目標行動

博物館に展示されている資料を観覧し、分かったことや疑問に感じたことをメモし、島尻の歴史、文化、自然について気付いたことをまとめて発表することができる。

オ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができる。
- ② 博物館での観覧順を守ることができる。
- ③ 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
- ④ 展示場所により分野展示の内容が違うことを指摘できる。
- ⑤ タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑥ ワークシートやメモにより記録を残し、発表することができる。



カ 学級別順路

誘導ボランティア

1組	地形図	グスク	古琉球	惣絵図	歴史部門室	近現代	(福島)
2組	近現代	地形図	グスク	古琉球	惣絵図	歴史部門室	(新名)
3組	歴史部門室	近現代	地形図	グスク	古琉球	惣絵図	(源河)
4組	惣絵図	歴史部門室	近現代	地形図	グスク	古琉球	(大湾)
5組	古琉球	惣絵図	歴史部門室	近現代	地形図	グスク	(赤嶺)
6組	グスク	古琉球	惣絵図	歴史部門室	近現代	地形図	(宮平)

キ 観覧展開 (例)

時(分)	内 容	博 物 館	教 師	児 童 生 徒
10	オリエンテーション	職員自己紹介	代表者打合せ (副担任の配置等)	
	マナービデオ放映	画像放映	児童着席指示	講座室着席
	誘導	誘導職員紹介	担任学級先導	展示室移動
			誘導員は、後方支援	
60	1. 博物館の総合展示と部門展示の観覧			
	展示の中から、島尻のに関係のある文化遺産に目を向ける		教師による誘導	
	それぞれの箇所に10分単位で移動する。		教師が、島尻にゆかりの文化財を見つけて	
			声かけ支援する	

15			観覧しながら、生徒が興味を持ったものを、メモさせる。
	2. 自由観覧により課題を見つける		課題を見つける様なアドバイス ・驚いたことはないか ・資料と似たものはないか ・今と昔の違いは
5	観覧のマナーが守れたか確認		
	ワークシートにまとめる		疑問点や分かったことをまとめる
	集合		

特別支援学校 総合的な学習の時間

2007 / 12 / 11(火)

9時50分～11時30分 (100分)

沖縄盲学校高等部普通科

生徒11名

教師11名

講座室使用

ア 主題 「郷土」～沖縄のことを知ろう～

イ ねらい

- ① 沖縄県の自然・歴史・文化に関する興味・関心をより一層深め、それぞれが総合学習の時間に取り組んでいる内容について調べる事ができる。
- ② 新設された館内の雰囲気味わい、望ましい体験を積み、経験を広める。
- ③ 集団活動を通して、安全に行動できる力を養う。

ウ 目標行動

博物館の資料を見て、触れて分かったことや疑問に感じたことをメモし、調べたいことを、どのようにまとめ、発表するか見通しを立てることができる。

エ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができる。
- ② 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
- ③ 資料を見たり、触れる体験を行うことができる。
- ④ タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑤ ワークシートやメモにより記録を残し、今後の見通しを立てることができる。

G ⑤ ④ ③ ② ①

オ 博物館観覧・体験順

ボランティア

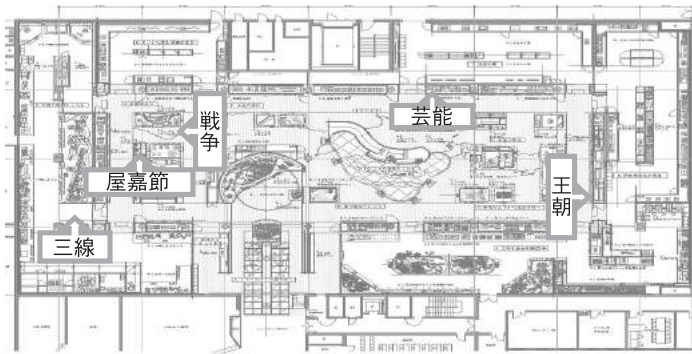
歴史班 「御三味」・「薬草」 「王朝について」 「戦争について」 (松野)

自然班 「ハブのハク製実物」「サンゴ」 自然史展示室 (松下武)

芸能班 「三線」・「カンカラ三線」 「芸能」・「屋嘉節」 「三線」 (松下芳)

カ 観覧展開 (例)

時(分)	内 容	博 物 館	教 師	児 童 生 徒
5	オリエンテーション	職員自己紹介	代表者打合せ (副担任の配置等)	
	マナービデオ放映	画像放映	児童着席指示	講座室着席
	ボランティアスタッフ紹介	職員紹介	担任学級先導	
			ボランティアは、後方支援	
70	歴史班 (松野)			
	「御三味」 体験	講座室に準備		
	「薬草」 体験	講座室に準備		
	「王朝について」	総合展示室	学級担任の先導	
	「戦争について」	総合展示室	〃	
	自然班 (松下武)			
	「ハブのハク製実物」体験 田中学芸員	講座室に準備		
	「サンゴ」 体験	講座室に準備		
	自然史展示室	自然史展示室	学級担任の先導	
	伝統芸能班 (松下芳)			
	「三線」「カンカラ三線」	講座室に準備		
	「芸能について」 近世琉球の文化	総合展示室	学級担任の先導	
	「屋嘉節について」 近現代	総合展示室	〃	
	「三線について」 民俗展示室	民俗展示室	〃	
展示されていることについて概要をとらえる 調査の方法について話し合う				
5	観覧のマナーが守れたか確認			
	ワークシートにまとめる			疑問点や分かったことをまとめる
	集合			



体験の様子

高等学校 現場見学会

2008 / 2 / 26(火)

10時00分～12時00分 (120分)

沖縄県立美里工業高校 1・2年生

生徒76名 (2クラス)

教師 9名

講座室 他

- ア 主 題 特殊建造物としての博物館の内覧
- イ ねらい 博物館の、建築の考え方を理解する。
一般の建造物にはない博物館の特徴を知る。
バリアフリー施設を観覧する。
公共施設としての博物館利用もマナーを知る。
- ウ 指導目標 建築の考え方と建造物を比較検証する機会を得ることで、建物の機能とデザインのバランスに心を揺さぶられ自らの建築設計の目標設定の参考にする。
- エ 目標行動 (めあて)
博物館の施設を見て分かったことや疑問に感じたことをメモし、建築の考え方と実際の建造物の比較をしながら観覧する。

オ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができる。
- ② 博物館での観覧順を守ることができる。
- ③ 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
- ④ 施設説明を集中して聞くことができる。
- ⑤ 建造物を図面と合せて確認できる。
- ⑥ 博物館の特徴をまとめて発表できる。

G ⑥ ⑤ ④ ③ ①

カ 観覧展開 (例)

時(分)	内 容	場 所	博 物 館	教 師	生 徒
15	オリエンテーション	講座室	(文化の杜)		
	職員紹介				
	映像CD				
	担当紹介				
100	博物館施設の概説	講座室	園原		
	施設観覧		観覧順による誘導	生徒の誘導	
	班ごとに観覧	A班	園原	比嘉・阿波連	観覧
	"	B班	赤嶺	新屋敷・石川	
	"	C班	宮平	島袋・登川	
5	まとめ			教師によるまとめ	まとめ

7 観覧順

- ① 駐車場
養護学校などの特別車両乗付け 雨天時のための庇 盲導犬のトイレ
- ② 玄関
時・木陰・美の庭 フリーゾーン (開放性) 公園との一体感
- ③ 展示室
総合～部門展示室
- ④ ケース
美術工芸室ケースと空調 照度

- ㉔ 休憩室 (B班ホワイエ)
これまでの解説への質疑
- ㉕ 民俗収蔵庫
博物館の収蔵資料 収蔵庫の温室度管理
- ㉖ 冷凍庫
動物死体の保存 (- 20度以上の冷却力)
- ㉗ トラックヤードと図面確認
図面から読む施設
- ㉘ オストメイト



民家にての糸ぐるま体験



「いよいよ博物館の展示室へ出発！」



観覧後のあいさつ



水の運搬体験



特別支援学校の体験学習



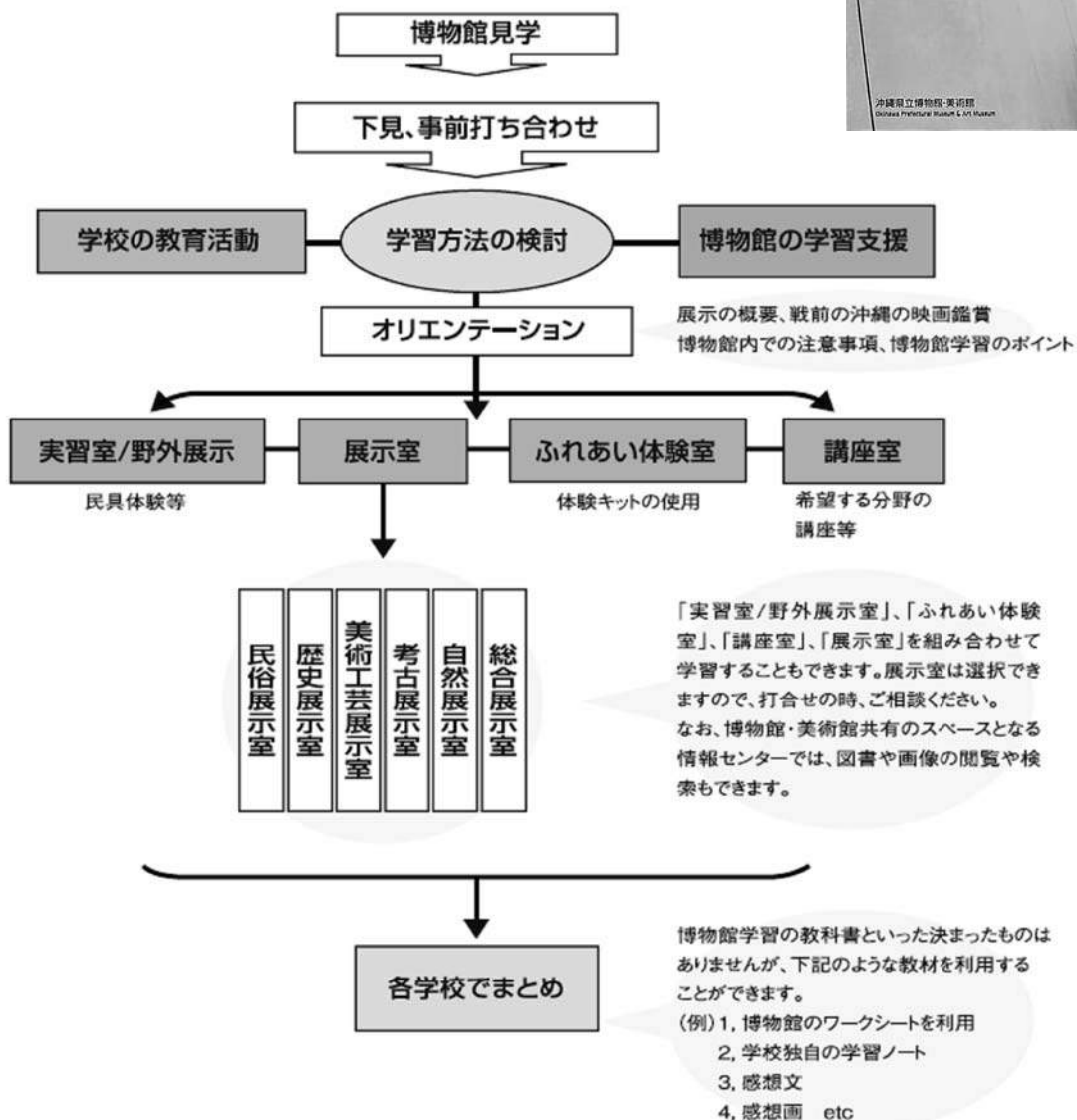
パーキによる運搬体験

2. 博物館利用の手引き・博物館利用団体受入れ要項

(1) 博物館利用の手引き

博物館はすべての方が学習できる「場」です。児童・生徒から成人まで、沖縄に関するさまざまなテーマについて学習あるいは研究できるようにお手伝いをします。グループでも個人でもどうぞ相談ください。

下記のフローチャートは、学校の団体見学を中心に図示したものです。個人の場合は学芸員と話し合いながら行います。



申し込み

- ・電話等でお問い合わせください。入館手続きのしかた、学習の日程、見学コース等調整いたします。
- 他の学校と重なる場合がありますので、事前にお申し込みください。
- ・学校団体が授業の一環として学習を実施する場合は、下見と学習法などの事前打ち合わせをお勧めします。

2007年発行
『博物館利用の手引き』より

(2) 平成20年度 博物館利用団体受入れ要項

ねらい

- ・博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ・博物館における受入れ計画を前年度から準備し運営を行う。
- ・学校等の団体が、博物館来館を年間計画の中に位置づけることにより、交通機関の活用を含めた教育計画の効率的な活動を行う。

対象

- ・県内の小中高等学校・特別支援学校
- ・県内大学・専門学校

受入れ内容

- ・博物館における体験学習や観覧の支援
- ・学校団体等の指導者との連携事業
- ・展示資料を郷土について知るための教材や研究材料として活用し、沖縄を知るための教室として利用
- ・各学齢期の多岐にわたる興味や関心に合った内容を、学校とともに構築
- ・学校の先生方のための博物館学習やその他の研修会への支援
- ・特別支援学校が見学するときは、内容によっては博物館資料を直接利用する方向で検討
- ・博物館資料となる実物・複製・模型などを、教材として活用

方法

- ・期間
- ・次年度の利用学校団体等の利用申し込みは、基本的に本年の11月末日までとする。
- ・希望日が集中した場合は、博物館において、受入れの日程を調整する。
- ・申し込み締切以降においても、原則として三ヵ月前までの予約は、他の団体の予約がなければ受入れも可能とする。
- ・申込みは、別紙所定の用紙（申込書）にて沖縄県立博物館・美術館に申し込む。
- ・郵送の場合

〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号
沖縄県立博物館・美術館 宛

- ・問い合わせ 担当 情報センター Tel 941 - 8200

その他

- ・開館時間 9：00～18：00（入館は17：30まで）
金・土曜日は9：00～20：00（入館は19：30まで）
- ・博物館が利用できない日
 - ・休館日（毎週月曜日） 但し、月曜日が祝日及び振替休日又は慰霊の日場合は開館し、翌火曜日を休館とします。
 - ・年末年始 12月29日～1月3日（臨時開館する場合があります）
 - ・くん蒸消毒期間（年に2回あります）
- ・博物館の入館料

	小中学生	高校・大学生	一般
常設展示	無料（県内）	250	400

企画展・特別展料金は含まれていません。

団体割引、年間パスポート、美術館料金は別に定められている。

県内高校生の教育課程における常設展の観覧は、申請により無料となる。

(3) 沖縄県立博物館・美術館 団体受付申込書

沖縄県立博物館・美術館 団体受付申込書

学校用

200 年 月 日

太枠内はもれなくご記入ください。該当箇所に☑を入れてください。

ふりがな 団体名	①							
ふりがな 所在地	②							
連絡先	③Tel			④Fax				
引率者(代表者) 職・氏名	⑤			内訳	小	年生	人	
					中	年生	人	
高	年生	人						
観覧したい展示 (複数選択可)	博物館	⑦	<input type="checkbox"/> 企画・特別展 (別料金)		引率者	人		
			<input type="checkbox"/> 常設展 (県内中学生以下無料)		()	人		
	美術館	⑧	<input type="checkbox"/> 企画・特別展 (別料金)		()	人		
			<input type="checkbox"/> 常設展 (県内中学生以下無料)	合計	人			
観覧日時 第一希望	⑨	200	年	月	日 (曜日)	:	~	:
観覧日時 第二希望	⑩	200	年	月	日 (曜日)	:	~	:
観覧日時 第三希望	⑪	200	年	月	日 (曜日)	:	~	:
オリエンテーションの有無 (見学前に館の概要や諸注意 を映像で紹介します 約10分)	⑫ <input type="checkbox"/> オリエンテーションを希望する <input type="checkbox"/> 希望しない (書式ダウンロード005「施設利用許可申請書」を提出して下さい)							
来館内容	⑬	<input type="checkbox"/> 授業 () 科	学級・学年単位 (学年) (学級)	まとめて来館 (:)				
		<input type="checkbox"/> 総合的な学習		分散して来館 (: ~ :)				
		<input type="checkbox"/> 修学旅行		ご利用の車種				
		<input type="checkbox"/> その他		大型バス (台) マイクロバス (台) 乗用車 (台)				
備考(博物館・美術館への希望や、来館時の課題、学校での事前指導等について)								

※館内では カフェスペースを除いて飲食できません。

※下見見学をされる際は、書式ダウンロード004「観覧料免除申請書(PDFファイル)」を下見当日にご持参下さい。
博物館常設展・美術館常設展の観覧料を免除します。

※館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

※美術館常設展は2008年3月以降となります。

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

Tel 098-941-1187 Fax 098-941-3530 (担当:情報センター)

受付者: () 内容の確認: 月 日 ()

沖縄県立博物館・美術館利用許可申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館

殿

申請者

印

電 話

下記により申請します

記

1 利用者

団体名

代表者

印

職業

住所

2 利用目的

3 利用する施設

4 利用する日時及び期間 自 :

到 :

5 予定参加人数

3. 博物館学習ノート

(1) 『博物館学習ノート』作成に当たって

これまでの博物館学習ノート

小学生のための『博物館学習ノート』	1988年3月	発行
中学生のための『博物館学習ノート』	1989年3月	発行
高校生のための『博物館学習ノート』	1990年3月	発行
『博物館においでよ』 - 博物館ワークシート -	1992年3月	発行
『発見！発見！大発見 博物館探検コース』	1995年3月	発行

これまでの『博物館学習ノート』（ワークシート）の課題

1988年から1990年にかけて、三冊に分けて製作されたノートは、それぞれの校種に合わせ、発達段階に応じた形で作られている。博物館に始めて来た人でも、資料についての、大まかな理解が可能になるガイド的な内容となっている。問題の数も少なめで、資料の紹介からはじまり、学習を促す形がとられている。

1992年に発行された『博物館においでよ』は、小・中・高を網羅するという方針で作られた。イラストによる資料の紹介を多く取り入れるなど、見やすくする工夫がなされている。一方、1つの頁に設定した問題の数が多い傾向がある。そのため必要な頁をコピーしてそのまま使えるものが少ない。このシートを活用して来館した学校で、問題の回答に多くの時間を費やし、児童・生徒が資料をじっくり見ることができていない場面が見られた。

1995年に発行された『博物館探検コース』は、試験的に製作されたワークシートである。ページ数も少なく、各分野の代表的な資料を選定し、資料を見ることで解答が導き出されるような問題設定となっている。

新館において活用される学習ノートには、以上のような状況を踏まえつつ、児童生徒が展示資料に興味・関心をもって向かっていくような工夫が必要である。

『博物館学習ノート』の基本的な考え方

これまで博物館で作成されてきた、学習ノートの課題を考慮し、博物館資料という“モノ”の観察を通して、単にながめるだけでは見えにくいところまで興味・関心が広げられるようなワークシートを作成する。

ア 『博物館学習ノート』の位置付け

- ・博物館の展示構成を基本とする。
- ・博物館において、中学生が調べ学習を実施できる『博物館学習ノート』とする。
- ・博物館資料の観察・体験へと誘導する内容とする。
- ・資料を観察・体験することで答えが導き出せる問題設定とする。
- ・生徒が答えを見出し、更に追求する方向へ導く内容とする。
- ・設問数を精選し、生徒に発見のためのゆとりを持たせる内容とする。
- ・学習意欲や思考力を高める設問を設定する。

イ 内容

- ・沖縄の豊かな自然や先人の知恵に結びつく内容とする。
- ・総合博物館として、各展示室のつながりを考慮する。
- ・学校で用いる表現と博物館での表現の違いを考慮する。

ウ 記述の配慮事項

- ・設問の意図は適切か。
- ・図や写真で表したほうが良い箇所はないか。
- ・強調文字で表したほうがよい箇所はないか。
- ・主語や述語、修飾語と被修飾語などの対応は正しいか。
- ・文字用語の統一は取れているか。
- ・誤字、脱字、当て字がないか。
- ・仮名遣い、送り仮名の使い方は正しいか。



小学生のための『博物館学習ノート』



中学生のための『博物館学習ノート』



高校生のための『博物館学習ノート』



『博物館においでよ』博物館ワークシート



『発見！発見！大発見！ 博物館探検コース』

過去の『博物館学習ノート』

エ 役割分担

	博物館	中学教諭
テーマの選定		
資料情報の提供		
設問作成		
試案の検討		
モニタリング		
最終原稿		

(2) 『博物館学習ノート』作成要項

編集方針

- ・小・中・高の校種別の『博物館学習ノート』（以下「ワークシート」という。）を3年計画で、作成する。
- ・ワークシートは、平成19年度(中学生)、平成20年度(小学生)、平成21年度(高校生)、の計画で作成を進める。
- ・博物館において平成元(1988)年から3年計画で作成されたワークシートと平成5(1992)年発行の『博物館においでよ』を参考に、新版として作成する。
- ・新館の展示や体験資料の中から、児童・生徒が、観察・体感することによって、自ら学ぶように導くワークシートを作成する。
- ・県内の学校より、総括1名、分野別に1名(5分野)の合計6名の委員を委嘱して、博物館職員を含めた作成委員会を発足させる。

編集内容

- | | |
|----------------------|--------|
| ・博物館の全体的な紹介(紹介文と説明図) | 教育普及担当 |
| ・歴史に関すること | 分野担当 |
| ・考古(人類を含む)に関すること | 〃 |
| ・自然史に関すること | 〃 |
| ・美術工芸に関すること | 〃 |
| ・民俗に関すること | 〃 |

作成方法

- ・単色刷りとする。写真は白黒。
- ・ワークシートは、全60ページを分野別に配分する。(頁の配分は調整することもある)
歴史(10) 考古(10) 自然史(10) 人類(4) 美術工芸(10) 民俗(10)
- ・設問内容は、各分野の展示資料の中から学芸員が選択し、作成委員と共に決める。
- ・ワークシートの草案ができたなら、近隣の中学校に使用してもらい、問題点を検討する。(モニタリング調査参照)
- ・博物館の各分野は、社会科、理科、家庭科、美術科等の教科との連携を図る。
- ・全体会議は、3回実施し、分野別会議は随時開催する。

取組計画、担当

- ・編集委員の依頼(学芸員による)
- ・草案(原稿)提出(学芸員が執筆)
- ・児童・生徒によるモニタリング
- ・原稿修正、調整(1月～2月)
- ・印刷完了(3月)
- ・学校への配布(4月)

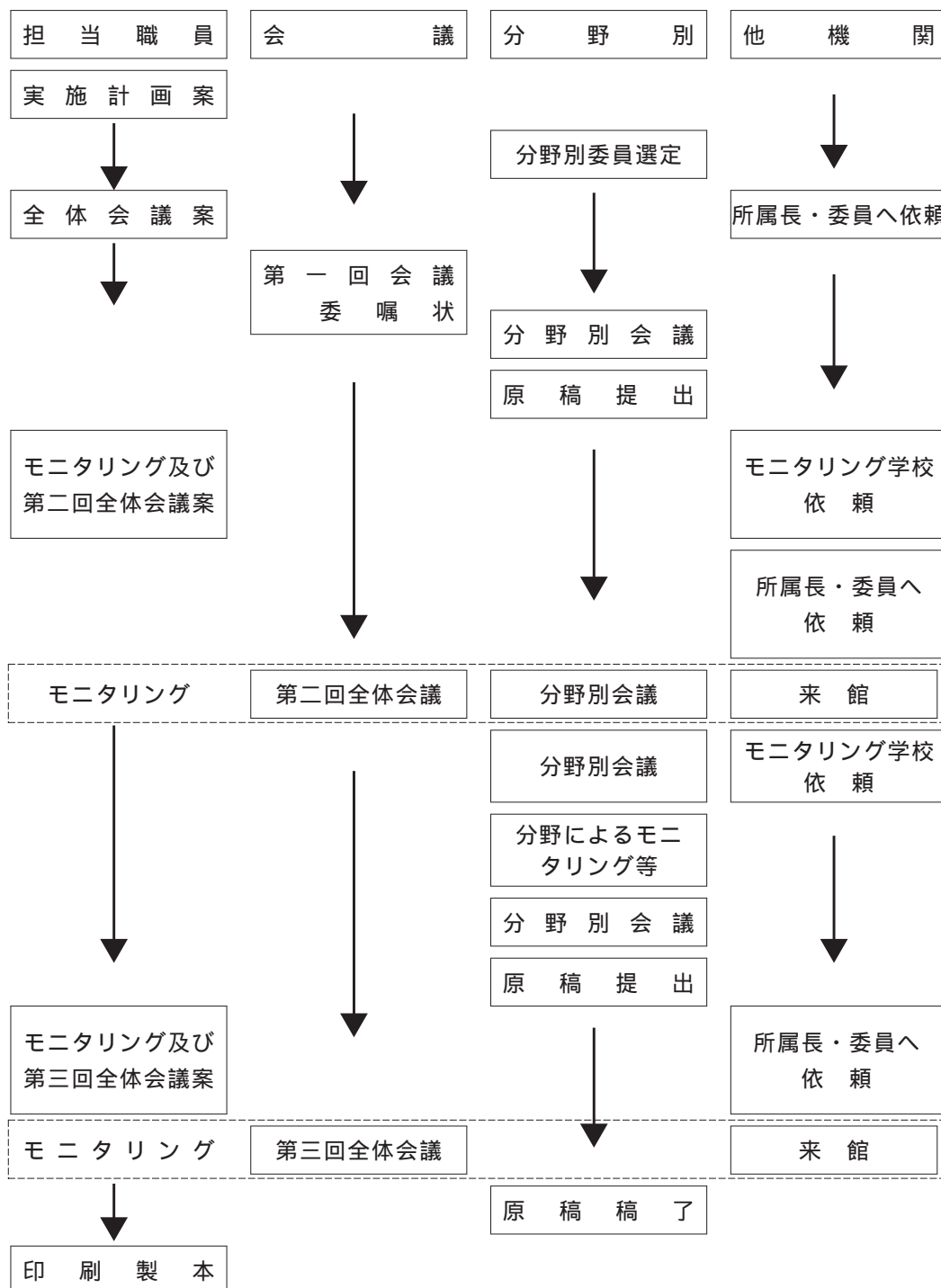
印刷仕様

- ・A4版・左綴じ
- ・単色刷り・表紙のみカラー(設問内容により変更することもある)
- ・印刷部数 700部(校種により変更することもある。)

(3) 『博物館学習ノート』作成委員

	氏 名	所 属 名	
1	前 田 真 之	西原町立西原小学校	校 長
2	兼 松 力	与那原町立与那原中学校	教諭(社会)
3	木 山 淳 一	浦添市立港川中学校	" (理科)
4	漢 那 広 美	那覇市立寄宮中学校	" (家庭)
5	松 田 庄 一 郎	宜野湾市立嘉数中学校	" (社会)
6	古 堅 彰 子	那覇市立寄宮中学校	" (美術)

(4) 『博物館学習ノート』作成の流れ



(5) 会 議

『博物館学習ノート』作成委員会 第1回会議

ア 場所 博物館 講座室

イ 日時 平成19年12月13日 午後4時～6時

ウ 委嘱状交付式

司会 新垣隆雄(副館長)

i 委嘱状交付

ii 牧野浩隆館長あいさつ

【第1回会議】

i 説明と講話

- ・これまでの『博物館学習ノート』 教育普及担当 赤嶺
- ・講話 これからの『博物館学習ノート』 元教育普及課長 前田真之(西原小学校長)
- ・『博物館学習ノート』の基本的な考え方 教育普及担当 赤嶺

ii 会議

司会 萩尾俊章(博物館班長)

会長、副会長選任

意見の集約

iii 分野別会議

館長あいさつ

このたびは、博物館学習ノートの委員として、博物館より依頼いたしましたところ、ご承諾いただき、まことに感謝申し上げます。

ご存知のように博物館は、この地「おもろまち」におきまして11月1日に開館いたしました。開館以来県内外からの入館者は、8万2千人を数えました。博物館・美術館は、歴史や文化、芸術、自然などが総合的に集積されているところです。地方の独自性が求められる中、本館では、沖縄の優位性を見出し、発信することで、県民が地元「沖縄」に、自信と誇りを持てる社会づくりの、お手伝いをしたいと考えております。

その一ついたしまして、県内の児童生徒向けに、博物館での「まなび」を誘導するノートを作成します。これまでも博物館では、学校との連携のために『博物館学習ノート』と題したワークシートを作成してまいりました。新館のオープンにより、展示内容は最新の調査研究をもとに刷新されており、これに対応した学習ノートを作成することが、急務となっております。

今後、作成された『博物館学習ノート』は、県内の全中学校に配布され、博物館を活用または、連携して学習を進めていく際に、活用されるものとなります。さらに、学習的な内容はもちろんではありますが、このノートを契機として、多くの児童生徒が、博物館により親しみ、楽しく学び、研究や調査をしていくために、何度も博物館に足を運ぶ、つまり「リピーター」としての児童生徒を育成できるような内容にしていきたいと思います。

今年度は、これから3月までの短期集中型の取り組みになってしまいますが、委員の皆さんのご協力を賜り、より良い『博物館学習ノート』ができることを期待しております。よろしく願いいたします。

『博物館学習ノート』モニタリング調査及び第2回全体会議

ア モニタリング調査

i ねらい 本年度作成を進めている『博物館学習ノート』(ワークシート)について、実際に生徒が活用する場面を観察し、答案を回収すること等により、ワークシートの内容を深化させるための資料を収集する。

ii 日 時 平成20年2月1日(金) 9:30～15:30

iii 場 所 博物館 講座室 展示室

iv 受入校

沖繩市立美里中学校	7クラス		
前班	5・6組	9:30~	後半 1・2組 12:25~
	7組	10:25~	3・4組 13:40~
八重瀬町立具志頭中学校	4クラス	9:45~	

v 方法

- ・学校の学習のねらいをもとに、観覧の順路と時間を確認する。
- ・学校の観覧のねらいは、社会見学、総合学習等、別にあるので、大きく前半部において学校のねらい、後半部において博物館のワークシートを試行する。
- ・ワークシートの活用については、学級や学級の班に配分し、各分野の全シートが活用できるようにする。
- ・1グループが、1つのシートを活用する。
- ・シートを活用して展開する時間は、15分で調整する。
- ・シートは、観覧当日講座室にて班別に配布する。
- ・シートは、博物館で準備し、活用後複写し、原本を学校へ送付する。
- ・モニタリング開催と併せて、第2回『博物館学習ノート』全体会議を開催する。
(必要に応じて、分野別の会議を開催する。)

vi 役割分担

前日まで

学校との連絡調整	赤嶺
作成委員への連絡	赤嶺
ワークシート原稿	各分野学芸員
印刷	宮平
班分け	赤嶺

当日

記録	
会議録(宮平)・映像(新名)	
作成委員の評価表	赤嶺

イ 第2回全体会議

- i 名称 第二回『博物館学習ノート』作成委員全体会議
- ii ねらい モニタリングにおいて収集した資料をもとに、作成委員会全体で検討し、確認する必要のある事項を協議する。
- iii 日時 平成20年2月1日(金) 17:00~
- iv 場所 博物館 講座室
分野別会議(必要な分野のみ全体会議の前後に開催)

『博物館学習ノート』モニタリング調査及び第3回全体会議

ア モニタリング調査

- i ねらい 本年度作成を進めている『博物館学習ノート』(ワークシート)について、実際に生徒が活用する場面を観察し、答案を回収すること等により、ワークシートの内容を深化させるための資料を収集する。
- ii 日時 平成20年3月11日(火) 15:10~ 15:30
- iii 場所 博物館 講座室 展示室
- iv 受入校
那覇市立安岡中学校1学年 5クラス 14:00~15:40
モニタリング開始 15:10~

v 方法

- ・学校の総合的な学習のねらいをもとに、観覧の順路と時間を確認する。
- ・学校の観覧のねらいは、社会見学、総合学習等、別にあるので、前半部において学校のねらい、後半部において博物館のワークシートを試行する。
- ・ワークシートの活用については、学級や学級の班に配分し、各分野の全シートが活

用きょうにする。

- ・ 1グループが、1～2枚のシートを活用する。
- ・ シートを活用して展開する時間は、20分で調整する。
- ・ シートは、観覧当日講座室にて班別に配布する。
- ・ シートは、博物館で準備し、活用後複写し、原本を学校へ送付する。
- ・ モニタリング開催と併せて、第3回『博物館学習ノート』全体会議を開催する。
(必要に応じて、分野別の会議を開催する。)

イ 第3回全体会議

- i 名称 第3回『博物館学習ノート』作成委員全体会議
- ii ねらい モニタリングにおいて収集した資料をもとに、作成委員会全体で検討し、確認する必要のある事項を協議する。
- iii 日時 平成20年3月11日(火) 17:00～
- iv 場所 博物館 講座室
分野別会議(必要な分野のみ全体会議の前後に開催)
- v 当日の流れ

安岡中学校	
13:30	県・指定管理者・ボランティアとの調整会議
14:00	博物館到着 講座室への誘導 ワークシート配布
14:15	オリエンテーション終了 展示室移動 学校のねらいによる観覧 誘導ボランティアにより総合・歴史 展示室観覧
15:10	ワークシート実施 各分野への移動 展示ガイドボランティアによる解説 学芸員と作成委員による観察調査
15:30	まとめ ワークシート回収

(6) 打ち合わせ・議事録

『博物館学習ノート』中学生版 打ち合わせ

参加者

前田真之(西原小学校校長)

赤嶺 敏(博物館学芸員)・宮平真由美(博物館嘱託員)・新名悟(美術館学芸員)

日時:平成19年12月6日(木) 13:30～15:00

場所:西原小学校校長室

打合せ内容

- ・ 今年度作成する『博物館学習ノート』は、中学生版で、新館に合った内容のものであること。
- ・ 各分野に1人の委員からなる検討委員会を立ち上げ、学芸員と委員で調整して作業を進めること。
- ・ モニタリングを行い、内容を深化させること。

確認

- ・ 生徒が、展示資料を観察して学習出来る内容とし、博物館の展示構成にあったワークシートを作成する。
- ・ 問題を解くだけで終わらない、子ども達が発展的に追求できる学習内容にしていく。

- ・一方的に何でも教え込まない方向で作成する。
- ・学芸員と委員の役割分担は、資料の選定・ワークシート作成を双方で行い、資料情報と最終原稿を学芸員、試案の検討を各委員でおこなう。
- ・各展示室のページ割り振りは10ページずつが妥当と考えられる。
- ・モニタリングを実施すれば、良いワークシートが出来る可能性がある。
- ・1月末までに素案が出来上がっている様にしたい。その後、モニタリングをしながら修正する。
- ・『博物館学習ノート』の作成に先だって、各分野ごとに委員を依頼する。
- ・学芸員と委員へ向けて、第1回の全体会議の中で、「発見につながるワークシートづくり」についての講話を前田氏に依頼し、了解を得た。
- ・前田氏に、展示構成リストの中で、ワークシートの問題として活用できる資料の選考を依頼し、了解を得た。

第1回『博物館学習ノート』作成全体会議 議事録

日 時：2007年12月13日（水）16:00～18:00

会 場：博物館講座室・展示室

参加者：前田会長、兼松、木山、古堅、漢那

萩尾、赤嶺、田中、久場、藤田、羽方、稲福、新稲、平川、上原、宮平

内容

- ・委嘱状交付
- ・議長選出及び会議

確認事項

- ・1995年版のワークシートは、文章を意図的に減らし、視覚に訴えるものになっている。
- ・同版は、テーマが絞られ、文章が簡潔化されている。
- ・「ワークシート」は、学芸員と教師とが一緒になって作る。
- ・「ワークシート」は、資料を観察していく中で、誰でも、資料に入っていけるモノがよい。観察することで深いところまで気づいていける様にする。
- ・授業のみに止まらず、生徒自身が興味を持ったモノを、自主学习していけるものにする。
- ・集団での学習、個人での学習にも対応出来る「ワークシート」を作成する。
- ・「ワークシート」は各学校へも配付するが、館内でも配付する。
- ・博物館の展示構成を基本とした内容とする。
- ・生徒にゆとりをもって学んでもらうため、問題を精選する。

課題

- ・これまでの中学校の利用では、総合学習や選択授業での活用が多かったが、時数が減らされる中、これまでと同様な位置づけでの来館は、難しいのではないかと。
- ・作られた「ワークシート」をどの教科領域で活用するかが問われる。
- ・事前学習に利用できると、「ワークシート」の利用価値が向上すると思われる。
- ・博物館・美術館でバスを購入して利用させてもらおうと、足を運ぶ機会が増えるだろう。
- ・博物館見学の中心は、社会科になるので、美術工芸・考古などの利用は少なくなってしまう。
- ・穴埋め問題が多いと解答に熱中し、その資料をよく観察しないまま終えてしまう可能性がある。
- ・「ワークシート」の内容は、博物館の展示構成に沿うが、学年・単元を入れることで、使いやすくなるのではないかと。
- ・「ワークシート」は、教科に沿ったもので、ルーズリーフ式にして、展示室に置いてはどうか。
- ・展示室配置のみで、学校配布がなければ、博物館に置かれてあることを周知させる必要がある。
- ・中学校の教科の中で、来館を位置づけることは難しい。（時間数・経費）
- ・夏休みの自由研究の課題の1つとしては、可能性がある。

調整事項

- ・ショップでガイドブック的に販売しても良いのではないかと。
- ・「ワークシート」のノート方式とするのは検討を要するが、今回は作成する方向で確認する。

第2回『博物館学習ノート』作成全体会議 議事録

日時：2007年2月1日（金）17:00～

会場：博物館講座室

参加者：前田会長、兼松、古堅、漢那

萩尾、赤嶺、田中、稲福、上原、平川、久場、羽方、山崎、新名・宮平（記録）

モニタリング調査から

状況

- ・解説パネルや展示資料を見て、ちゃんと解いている子もいた。
- ・設問によっては、楽しく学習している子もいた。
- ・全体的に資料を観察しながら、「ワークシート」を解いていた。
- ・導入（リード）文を読んでいる子が少ない。
- ・資料やパネル説明などを見ずに、ナイナイと聞いてくる子もいる。
- ・「ワークシート」の設問にある資料を探すのに戸惑う子が多くいた。

課題

- ・設問によっては難しいのもあるので、子ども達に合わせた分かり易いものにする必要がある。
- ・自力で解決しようとしめない生徒に、どう資料に向かわずかも課題である。
- ・キャプションやパネルなどの文字説明の充実度によっても、解答に差が出ている。
- ・短時間でも利用しやすい様に、設問内容や、設問の数は検討が必要である。
- ・学年、発育段階によって、設問に難度を付けてもいいのではないか。
- ・資料の場所までの誘導の仕方を考える必要がある。
- ・作成側の意図していない答えがあったので、設問の仕方に工夫が必要である。
- ・展示室で迷わない様、また資料が探しやすい様に、展示室を網羅する地図などが必要ではないか。

調整事項

- ・「ワークシート」のタイトルは統一した書式とする。
- ・スケッチなどを増やし、より観察に向かわせるように方向付けをする。
- ・既存の知識がなくても、興味を涵養する設問などを取り入れる様にする。

各分野別の取り組み状況（ワークシートを作るまでの経過報告）

歴史・人類・考古

- ・委員に、博物館まで何度も足を運んでもらい、皆でいくつかの問を出して、その中から「ワークシート」に合ったモノを選んで、方向性を見出した。（モノを観察 作業 何に繋がるのか）
- ・時代、問題数に偏りがあるため、全体を網羅する形にもっていく。

民俗

- ・数回に渡って検討し、モノ展示だけではなく、どのように使うのかを知るためにフォト展示は必要。
- ・夏休みの課題として使える様な問題にしていける方向で作った。

美術工芸

- ・資料の観察や、名前を通して見れるモノとして作成し、委員にも見てもらいながら進めた。

自然

- ・設問にあたっては、事前に委員が引率してきた子ども達が興味を持っていたモノを取り上げた。
- ・問題数が多いのであれば、減らしてもいいのではないか。

全体的確認事項

- ・全体会で、他の分野などからの意見を参考にするものの、各分野の「ワークシート」は、各々の学芸員と委員とで最終的には仕上げる。
- ・「ワークシート」の大きな流れは、モノに着目させる方向で作成する。

- ・文字情報と資料との兼ね合いは、委員と学芸員で、内容を調整して詰める。
- ・博物館の展示構成にあった「ワークシート」にする。
- ・リード文を入れ、リード文の上に展示内の地図を載せる。
- ・博物館観覧のルールや目次をつくってはどうか。
- ・民俗の「ワークシート」の作りが見やすく、分かり易いので、それに合わせる。
- ・「ワークシート」は2色刷を予定している。

調整事項

- ・ワークシート用の下敷き（マップ）の様なものを用意してもらったらどうか。
- ・ルーズリーフ式との意見もあるが、電子ファイル（PDF）にするので、プリントは可能である。

未決事項

- ・「ワークシート」の様式の統一が必要なので、後日提案する。
- ・モノに対する（見る）時間を長く取れる設問を作成したい。
- ・難易度をつくる判断は、難しいので、どの子でも入っていける問題を導入部分に作っていく方が良い。
- ・ルビの添付については、ボランティアにもモニタリングで協力してもらいながらチェックしていく。

第3回『博物館学習ノート』作成全体会議 議事録

日 時：2007年3月11日（金）17:00～18:40

会 場：博物館講座室

参加者：前田会長、兼松、古堅、

萩尾、赤嶺、田中、稲福、上原、平川、羽方、山崎、新名・宮平（記録）

モニタリング調査から

状況

- ・生徒に地図を持たせたので、混乱なく資料を見出していた。
- ・生徒に学んで欲しいところを、コラムなどでいれてあるので、興味を持たすことができていた。
- ・この「ワークシート」で何を学ぶのかがリード文として枠に入っていたので、生徒は学習のねらいが明確で、彼らが戸惑う様子がほとんどなかった。
- ・ボランティアから「文章を読んでいない子が多くいた。」との指摘があった。
- ・設問の資料を探すのに戸惑う子もいた。
- ・例題の表記に工夫が必要。例題の資料を探している子もいた。

課題

- ・設問の内容によっては、難しいのがあった。「文章が難しい」とのボランティアからの声もあった。
- ・1つの設問から2つの答えを導き出す問は、分かりづらいので調整する。
- ・設問によっては、難しいものもあるが、省略できないものがある。
- ・文章を読まない事へ対しての対応としては、読んで欲しいところを太字にする、またはアンダーラインを引く必要があるのか。文字を読まなくても、分かる様にする工夫が必要か。
- ・個人差のある子ども達に、どう対応していくのか。

調整

- ・解答へ導く支援があれば、解決できそうな問もある。「文章をもう少し良く読んでみて」と促す設定も必要。

分野別の取り組み状況

歴史・人類・考古

- ・モノを見て、何が引き出せるかにこだわって作った。
- ・発問の仕方や、どのように答えやすくするなど、工夫が必要。
- ・「『ワークシート』にある地図を見ましょう」と、一言あるだけでもわかるのではないか。
- ・モニタリングを通して、もう変更のいらぬワークシートも出来た。
- ・資料を見て、作業に入る。そこから、答えを導き出せる様にしている。

- ・設問設定の仕方の方向性は間違っていないと考えている。
- ・子ども達が答えを見つけ納得する事を考えて作っている。しかし、そうでないところもあるので、設問などをもう少し直していく。
- ・難易度は必要だろう。 の数で表すなど。(~)
- ・作っていく中で、全ての子に対応するものを作るのは難しい。1年生と3年生でも違う。対象を絞ってもいいのでは。
- ・文字を読まないのは、今の小中学校の中で問題になっている。教科書会社ではそれに困っている。キャラクターを入れてもいいのでは。子どもにとっても、やわらかくなる。一般の教科書を参考にしてもいいのでは。
- ・学芸員は思いがあって作っているが、教員に作成の意図(仕掛け)を伝えることは難しい。教員向けの指導書(副読本)的なものが必要だろう。
- ・「ワークシート」の利用にあたっては、社会科と理科が扱いやすいのでは。

美術工芸

- ・膨らみのある答えが欲しいので、発問の仕方に工夫が必要。
- ・例題の工夫が必要。
- ・前回より、地図も入って分かり易くなっている。
- ・「わくわく博物館シート」など、楽しい名称をワークシート名にしてはどうか。(過去、タイムカプセル、未知の世界、不思議感覚を強調してもよい。)
- ・戦後の沖縄で に?が入っているのは、分かり易い。
- ・美術工芸の説明文もクイズ形式にしてもいいのでは。

自然

- ・難易度を見ただ目で分かる様にするのはあまり好ましくない。
- ・「資料が語る。」のは難しいので、多くの文字で説明していくのは、避けられない。
- ・こちらが意図するものを理解していくためには、ピクト、アイキャッチは必要である。
- ・ワークシート全体の中身、設問の表現(書きなさい、書きましょう、書こうなど)の統一が必要である。
- ・文章を読みながら、流れで分かる問題も設定した。
- ・ジオラマを観察して探していける事が一番最良あるが、ボランティア等による導きが必要である。
- ・SOSは、ビデオを見て解くモノだが、キャプションを見ている子もいたので、ビデオを強調していく。また、保護に関する法律名を知って欲しいと言うことで、設問内容を変えた。

その他

- ・指導書を早急に作るのは今は難しい。今後、PDFにしていく方がよいのではないか。
- ・難易度で分けて作っていくのは難しいのではないか。
- ・子ども達の知識が違っていても、導入として使えるものを入れていくのが、ベターではないか。
- ・このワークシートで何を学んで欲しいのか。どの子どもも入っていける発問をしていくのが、いいのではないか。
- ・文章を簡潔にしていく工夫が必要。
- ・レイアウトをもう少し工夫してほしい。
- ・指導案などで、意図を理解させていく。
- ・ワークシートのタイトルをワクワクする様なものに。

全体で統一しなければならない事。

- ・以前に文字のポイント数は出しているなのでそのように。
- ・内は、「調べてください。」等を「・・・みよう。」に統一してはどうか。
- ・コラム的なものは、囲んで、「コラム」としてはどうか。
- ・キャラクターとしては、みゅう爺、アムはどうか。または、ふれあい体験室のイラストから使うなど。
- ・解答は、手持ちとしてはあった方がいい。
- ・設問のねらいなどを示していくことは必要。

- ・難易度は、指導書の中で分かる様にしようか。

名称はどうするか。

- ・博物館学習ノートを残しておかないと、冊子の内容が先生方には分からないだろう。
サブ 博物館学習ノート
メイン ワクワク探検ノート
ヘッダーにワクワクを入れてもいいのでは。



全体会議の様子 1



全体会議の様子 2

展示理解へ「学習ノート」



「博物館学習ノート」を活用しながら、熱心に展示を観賞する生徒たち—那覇市の県立博物館

安岡中が試行活用

県立博物館の展示に関心を持ち、より理解を深めてもらうと、同館は、昨年十二月から中学生向けの書き込み式ワークシート「博物館学習ノート」の作成に取り組んでいる。十一日にはモニタリング調査を実施。那覇市立安岡中学校の一年生約百七十人が実際に学習ノートを使い、自然や歴史など、展示に関する問題や質問に答えながら観賞した。

近世の絵地図に関する学習ノートを活用していたグループでは「琉球王国のころのあなたの住所は」との課題に挑戦。生徒たちは学芸員や博物館ボランティアのアドバイスをを受けながら、熱心に資料を観賞して、答えを

「学習ノート」は、専ら門的な知識に加え、子ども視点を取り入れるために、博物館学芸員のほか、学校現場の教諭など十八人からなる作成委員でこれまで内容を検討してきた。三月末までに約四十五種類のワークシートを作成し、県内の全中学校に数冊ずつ配布するほか、小学校・高校にも一冊ずつ配布し、四月から活用してもらう計画だ。小学生と高校生向けワークシート作成も来年度以降取り掛かる。

この日のモニタリングでは、生徒を自然や民俗、美術工芸などの分野ごとにグループ分けし、それぞれ「学習ノート」を配布した。

「学習ノート」は、専ら門的な知識に加え、子ども視点を取り入れるために、博物館学芸員のほか、学校現場の教諭など十八人からなる作成委員でこれまで内容を検討してきた。三月末までに約四十五種類のワークシートを作成し、県内の全中学校に数冊ずつ配布するほか、小学校・高校にも一冊ずつ配布し、四月から活用してもらう計画だ。小学生と高校生向けワークシート作成も来年度以降取り掛かる。

遺跡に関する学習ノートに挑戦した大城亮君（三）は「考えながら展示を見るから、普通に観賞するより頭の中に残って面白かった」と話した。

県立博物館 中学生版を月内作成

平成20年 3月18日
琉球新報

(7) 『博物館学習ノート』モニタリングの様子



タッチパネルを見ての学習中



自然史部門展示室にて学習中



土器のスケッチ



土器の文様にもいろいろあるんだ



グスクの形って1つじゃないんだ



港川人より背が高いよ！

博物館体験学習教室

博物館での体験的内容の事業の始まりは、1991年から実施した「歩く・見る・作る」教室である。当初は子どもを対象に夏休みに行ってきたが、現在では講座名も変わり、親子、一般を対象に一年間に数講座を開催している。各講座は、自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学べる内容になっている。

今年度は、4講座と開館記念展関連の講座を開催した。

博物館体験学習教室実施要項

1. 主旨・目的

沖縄の歴史や文化及び自然と結びついた体験的な活動を行うことによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵等を学ぶ。

2. 内 容

博物館の各分野（自然、人類学、考古、歴史、美工、民俗）の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

3. 実施日と場所

実施日：毎月1回、第3日曜日

午前9時～12時までの3時間

場 所：特に指定がない場合は、博物館実習室（1F）

開館記念特別展関連講座は毎週土曜日を予定。

4. 受講方法

1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

（公平を期すため、館長による抽選。）

抽選の場合の当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

回数	期 日	演 題	講 師 名	内 容	定 員
1	11月25日 (日)	化石のレプリカをつくらう	知 念 幸 子 (沖縄県立博物館・美術館 学芸員)	石膏で化石のレプリカを作り、色を塗り仕上げる。	40
2	特別展開催期間中の毎土曜・日曜日	ワークショップ		勾玉作製キットを使って勾玉を作製する。	10名 (当日 受付)
3	1月20日 (日)	木のおもちゃをつくらう	上運天 賢 盛 (おもちゃづくりの会 ピノキオ会長)	木や木の実などでおもちゃを作る。	40
4	2月17日 (日)	しっくいシーサーをつくらう	奥 原 宗 典 (奥原製陶所)	しっくいと瓦を使って、シーサーを作る。	40
5	3月16日 (日)	博物館探検	赤 嶺 敏 (沖縄県立博物館・美術館 学芸員)	博物館学芸員のお仕事を体験する。	10

化石のレプリカをつくろう

講師：知念幸子

沖縄県立博物館・美術館 学芸員

11月25日(日) 9:00~12:00
博物館実習室<1F> 定員40名
参加費500円

石膏で化石のレプリカ(複製品)をつくり、色を塗り仕上げる。

□ 今後の日程 □

期日	内容
1月20日(日) <定員40名>	『竹や木のおもちゃをつくろう』 竹や木、木の実などでおもちゃをつくる
2月17日(日) <定員40名>	『しっくいシーサーをつくろう』 しっくいと瓦を使ってシーサーをつくる
3月16日(日) <定員40名>	『博物館探検』 普段入ることのできない博物館の裏側見学
12月毎週日曜 <定員10名・当日受付>	開館記念関連ワークショップ 勾玉をつくる

※定員制ですので参加希望の方は必要事項(名前・連絡先)を明記の上 FAXまたは葉書にて文化の杜まで応募下さい。
応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

文化の杜 FAX: 098-941-2392 電話: 098-941-1321
住所: おもろまち3-1-1(博物館・美術館内事務所: 町田)

「化石のレプリカをつくろう」実施計画

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日時

平成20年11月25日（日） 9:00 ~ 12:00

3 対象者

親子・一般

4 募集人員

40名（多数の場合は抽選）

5 日程

受付	9:00 ~ 9:15
開講式	9:15 ~ 9:30
始めの言葉	司会（文化の杜:町田）
講師紹介	司会
終わりの言葉	司会
講座	
・製作説明	9:30 ~ 9:45
・製作作業	9:45 ~ 11:30
後片づけ	11:30 ~ 11:45
閉講式	11:45 ~ 12:00
始めの言葉	司会（文化の杜:町田）
運営責任者挨拶	（文化の杜:福島）
終わりの言葉	司会

6 講師

知念幸子 博物館学芸員

7 役割分担

(1) 当日までの役割分担

事業起案及び講師依頼	赤嶺
マスコミ各社への受講生募集依頼	文化の杜
受講生受け付け	文化の杜
講師打ち合わせ	赤嶺
説明資料作成	赤嶺・文化の杜
材料・用具等の諸準備	宮平・赤嶺

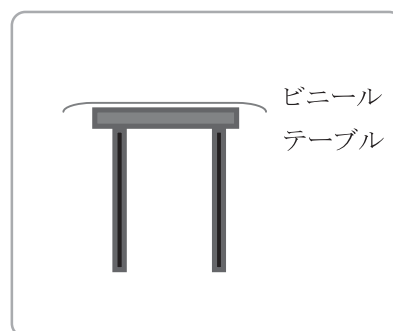
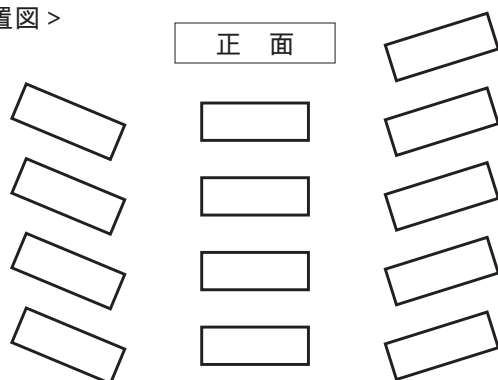
(2) 当日の役割分担

受け付け及び材料費の徴収	(文化の杜:町田)
開講式・閉講式司会進行及び講師紹介	
司会	(文化の杜:町田)
講師紹介	司会
運営責任者あいさつ	(文化の杜:福島)
講座の進行	(文化の杜:町田)
材料等の準備及び配布	宮平・赤嶺・博物館ボランティア

8 体験会場

沖縄県立博物館実習室

<配置図>



9 準備するもの (材料・工具等)

博物館で準備するもの

- 石こう
- 歯科用印象剤
- ラバーカップ (かき混ぜるためのもの)
- ヘラ (かき混ぜるためのもの)
- 紙コップ
- 紙容器
- 化石 (サンヨウチュウ、アンモナイト、肉食恐竜の爪)
- 絵の具
- 筆
- 剥離剤
- 新聞紙

受講生が準備するもの

作業ができる服装

体験学習教室「化石のレプリカをつくろう」

目 的：

化石を採集するためには化石についての情報を集め、野外に出かけて採集するため、なかなか大変な労力が必要となる。そのため化石はその研究の過程上、発掘作業やクリーニングなど大変な労力が必要とされる。そのように労力がかけられた貴重な標本を、研究するために化石のレプリカを制作技術がある。今回はこの化石を複製する技術を体験することで、化石に対して興味・関心を持たせる機会とする。

材 料：

石こう、歯科用印象材（義歯を作製するときなど、歯や口腔の型をとるために使われる）、ラバーカップ（かき混ぜるためのもの）、ヘラ（かき混ぜるためのもの）、紙コップ、紙容器、化石（サンヨウチュウ、アンモナイト、肉食恐竜の爪） 絵の具 筆
はく離剤（少量） 新聞紙

制作の実際：

注 意

- ・化石はホンモノです。だいじにさわりましょう『落とさない、ぶつけない、放置しない』
- ・かならずはなしはききましょう
- ・ざいりょうを、くちにいれないようにしましょう
- ・かたづけまできちんとやりましょう

第一段階「レプリカの型」をつくる

作業の前に化石にはく離剤を薄く塗っておく。

ラバーカップに、歯科用印象材と水を入れ、30～40秒以内でしっかりかき混ぜる。

紙容器に溶かし込んだ印象材を流し込み、化石の裏側が見えるように埋め込む。

化石のまわりをなめらかにする。

印象材が固まったら（所要時間約3分）、その中から化石を取り出す。

レプリカの型の完成。

第二段階「レプリカ」をつくる

ラバーボウルに石こうを計りとり、規定量の水を入れ、空気の泡が入らないように30～40秒以内でしっかりかき混ぜる。

上記 で完成した型に、 を静かに流し込み、型を軽くトントンとたたき空気を抜く。

石こうが固まったら、レプリカを取り出す。

レプリカに、化石の動物が生きていた頃の色などを想像し、絵の具で色をつけ乾燥させる。

レプリカの完成。

「化石のレプリカをつくろう」 11月24日 (日)

新館開館後初めてとなる当講座には、親子12組を含む26人の受講生が参加し、当館の知念学芸員の説明を受けながら、アンモナイト化石のレプリカを楽しく作りました。

受講生は、学芸員やボランティアの指導のもと、印象材を練り合わせた後、アンモナイトの化石を押し付けて型を取り、そこへ石膏を流し込み、形を作っていました。石膏が固まる間も有効に活用して、映像を見ながら化石について学びました。出来上がったアンモナイトのレプリカに自分の好きな色を塗り、世界に一つしかない自分だけの化石レプリカを仕上げました。受講者の中には未就学児もいましたが、お母さんやお父さんと楽しく作る事が出来た様でした。

今回は、化石の型を取るのに歯科医が使用する印象材を使用する事によって、スピーディーに作業が出来ると共に、アンモナイト化石の細かな凹凸なども綺麗に型取りが出来ました。しかし、石膏を溶くカップなど博物館にない道具類などを学校から借用させて頂いたので、今後、同様な講座をもつのであれば、揃えていく必要があると感じました。



レプリカ作製材料



混ぜてごらん！



水も入れようね～



化石とは？



色塗りたのしい～



出来上がったレプリカを持ってハイ、パチリ！

勾玉をつくる

1月毎週日曜(6日/13日/20日)

14:00~16:00

博物館実習室<1F>

定員10名

参加費500円

講師：知念幸子 氏



※定員制ですので参加希望の方は必要事項(名前・連絡先)を明記の上
FAXまたは葉書にて文化の杜まで応募下さい。
応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

文化の杜 FAX: 098-941-2392 電話: 098-941-1321

住所: おもろまち3-1-1(博物館・美術館内事務所: 町田)

開館記念展「人類の旅～港川人の来た道～」

関連ワークショップ「勾玉をつくる」実施計画

1 目 的

沖縄の遺跡からも見つかっている勾玉は古代の日本において、信仰的な意味を持った装身具として用いられたと考えられている。

今回は、材料としてヒスイではなく滑石を使用して、勾玉についての理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成19年12月～1月の毎週日曜日 14:00 ～ 16:00

3 対象者

親子・一般

4 募集人員

10名（先着順）

5 日 程

受付 14:00 ～ 14:10

開講式 14:10 ～ 14:20

 始めの言葉 司会（文化の杜:町田）

 講師紹介 司会

 終わりの言葉 司会

講 座

 ・製作説明 14:20 ～ 14:30

 ・製作作業 14:30 ～ 15:40

後片づけ 15:40 ～ 15:50

閉講式 15:50 ～ 16:00

 始めの言葉 司会（文化の杜:安元）

 運営責任者挨拶

 講師によるまとめ（知念）

 終わりの言葉 司会

6 講 師

知念 幸子 博物館学芸員

7 役割分担

(1) 当日までの役割分担

事業起案及び講師依頼	赤嶺
マスコミ各社への受講生募集依頼	文化の杜
受講生受け付け	文化の杜
講師打ち合わせ	赤嶺・宮平
材料・用具等の諸準備	知念

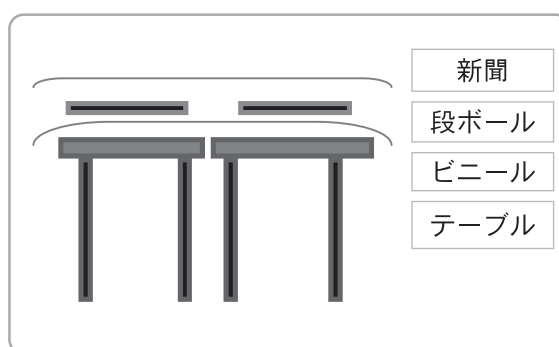
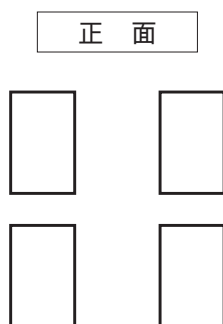
(2) 当日の役割分担

受け付け及び材料費の徴収	(文化の杜:町田)
開講式・閉講式司会進行及び講師紹介	
司会	(文化の杜:町田)
講師紹介	(文化の杜:町田)
運営責任者あいさつ	(文化の杜:)
講座の進行	(文化の杜:町田)
材料等の準備及び配布	ボランティア

8 体験会場

沖縄県立博物館実習室

< 配置図 >



9 準備するもの (材料・工具等)

博物館で準備するもの

- 滑石 (勾玉作りキット)
- 鉛筆
- サンドペーパー
- ヤスリ
- ふきん

受講生が準備するもの

- 作業ができる服装

「勾玉をつくる」 12月、11月の毎週日曜日

当講座は、開館記念展「人類の旅～港川人の来た道～」の関連講座として、12、1月の毎週日曜日に開催しました。毎回10名の募集をかけ、全6回の実施で約60人の受講生が参加し、当館の知念学芸員、山崎学芸員の説明を受けながら、勾玉を楽しく作製していきました。

受講生は学芸員やボランティアに教えてもらいながら、勾玉の材料となる滑石に勾玉の絵を描き、削って形を整えていきました。講座を始める前には、講師から勾玉の材料となる石材にはどのような種類があるのかなど、実物をみながら勾玉について学びました。受講生には未就学児から年配の方までおり、削る事で出てくる粉で服を汚さない様に気をつけながら楽しく作業を行いました。ヤスリの方も目の粗い物から細かい物へと段階を踏み、最後に水ヤスリをかけて終了です。出来た勾玉はそれぞれの石の模様や、作り手によって形も違うので、仕上がりに見るのも楽しみのひとつです。子ども達も、出来上がった勾玉をお母さんや講師に見せて、とても満足した様子でした。

今回の、勾玉づくりは当館としては初めての内容でしたが、キットも手軽に調達出来るので、今回の様に展示会、または学校体験としても取り入れることができると感じました。

また、開館記念展のもう一つの関連ワークショップ「未来の顔を体験」は、毎週土、日の午前中に展示室の一角にスペースを設け行いました。「もし、あなたが100年後に生まれていたら・・・」と、デジタルカメラで撮影した希望者の顔写真をパソコンを使って処理し、自身の100年後の顔を通して人類の進化を身近に体験してもらいました。ボランティアのサポート得て、会期中に19回行い386人の来館者が、自身の未来顔を体験しました。体験された方々は現在の顔と、未来の顔の違いに驚いている様子でした。



どんな形にしようかな



ていねいに、ていねいに...



削るぞぉ～



出来た

● ● ● | 木や竹のおもちゃをつくろう

講師：上運天賢盛(野山を愛する会会長)

1/20(日) 9:00~12:00

定員40名

参加費：500円

参加希望の方は
連絡先(名前・電話番号・参加人数)を
明記の上、FAXまたは電話にてお申込
下さい。



連絡先 沖縄県立博物館

TEL : 098-941-8200

FAX : 098-941-2392

講師紹介

上運天 研成（賢盛）先生 オモチャの会 ピノキオ 会長



博物館体験学習教室「木のおもちゃをつくろう」の講師を紹介します。

名前を上運天 研成（賢盛）（かみうんてん けんせい）といいます。先生は、葉っぱを使ったおもちゃや木の実を材料にしたおもちゃづくり、竹を材料にしたおもちゃづくり、カープヤー凾などの研究や、いろいろなおもちゃの製作活動をしながら、子どもたちとの触れあいを大切にしていた玩具づくりの、伝承活動を精力的に頑張っておられます。自然が大好きな先生には、これまでも博物館の体験教室で御世話になりました。今回の講座は、「木のおもちゃを作ろう」です。今年が『子年』であるということもあり、「歩くねずみ」のおもちゃを作ります。電気やバネを使ってのおもちゃは、皆さんの身近にもよく見かけるとは思いますが、「歩くネズミ」はどのような仕掛けで動くのでしょうか。作りながらその秘密を探りだして下さい。さらに絵付けを工夫することによって変化に富んだ表情が生まれてくるとは思います。

今回の体験学習教室の中で、自然の材料を生かしながら、豊かな知恵を働かせてきた昔ながらの「おもちゃ」にも興味を持ってもらえたら嬉しく思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけながら、郷土の自然や歴史、伝統文化を学ぶきっかけとなることを願っております。

「木のおもちゃをつくろう」実施計画

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日時

平成20年1月20日(日) 9:00 ~ 12:30

3 対象者

親子・一般

4 募集人員

40名(多数の場合は抽選)

5 日程

受付	9:00 ~ 9:15
開講式	9:15 ~ 9:30
始めの言葉	司会 (文化の杜:町田)
講師紹介	教育普及担当 (赤嶺)
終わりの言葉	司会
講座	
・製作説明	9:30 ~ 9:45
・製作作業	9:45 ~ 12:00
後片づけ	12:00 ~ 12:15
閉講式	12:15 ~ 12:30
始めの言葉	司会 (文化の杜:町田)
運営責任者挨拶	(文化の杜:福島)
終わりの言葉	司会

6 講師

上運天 研成 (賢盛) 先生 オモチャの会 ピノキオ 会長

7 役割分担

(1) 当日までの役割分担

事業起案及び講師依頼	赤嶺
マスコミ各社への受講生募集依頼	文化の杜
受講生受け付け	文化の杜
報償費起案及び講師打ち合わせ	赤嶺
説明資料作成	赤嶺・文化の杜
報償費支払い事務	文化の杜
材料・用具等の諸準備	宮平・赤嶺

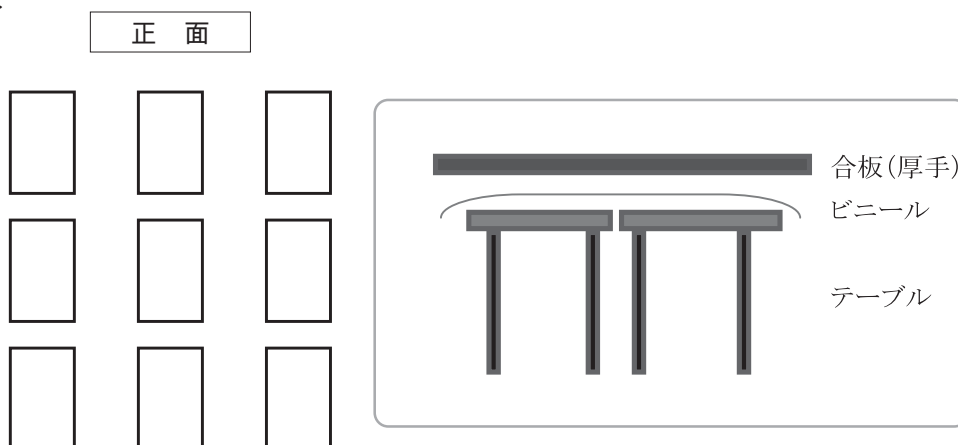
(2) 当日の役割分担

受け付け及び材料費の徴収	(文化の杜:町田)
開講式・閉講式司会進行及び講師紹介	
司会	(文化の杜:町田)
講師紹介	赤嶺
運営責任者あいさつ	(文化の杜:福島)
講座の進行	(文化の杜:町田)
材料等の準備及び配布	宮平・赤嶺

8 体験会場

沖縄県立博物館実習室

< 配置図 >



9 準備するもの (材料・工具等)

博物館で準備するもの

合板 (下ごしらえ済)
竹材 (下ごしらえ済)
目玉
蘇鉄 (ソテツ) の実

木工用ボンド
黒サインペン (黒マジック)
赤マジックインク
切り出しナイフ
紙やすり (80番と120番)

受講生が準備するもの

作業ができる服装

10 製作するおもちゃ

「歩くねずみ」

時間にゆとりがある方は、ソテツの実によるおもちゃの作製

動く玩具 歩く動物の作り方

おもちゃの会 ピノキオ

会長 上運天 研成

いろいろな形の歩く動物の玩具がある。鼠、牛、寅、兔、馬、山羊、豚、猪、亀など・・・
 基本的にはヤジロベエの原理で歩く。だから作る動物の胴体の長さは少し短め、支点は高く、
 両端の重心は出来るだけ低くする。

平均的には高さで長さの比は、10対13の割合がよい。

ここでは 縦5センチ、横6.5センチの板で、歩く動物を作る。

A 準備する物

1 材料

① 檜板	厚み7mm	5センチ×6.5センチ	1枚	(ベニヤ板でも良い)
② ベニヤ板	厚み4mm	5センチ×6.5センチ	2枚 ㊶㊷	胴体
③ 檜板	厚み5mm	1.5センチ×4.2センチ	2枚 ㊸㊹	脚
④ 檜板	厚み3mm	2センチ×2センチ	2枚 ㊺㊻	足
⑤ ベニヤ板	厚み2mm	6センチ×30センチ	1枚	歩道
⑥ ベニヤ板	厚み4mm	2センチ×30センチ	2枚	ガードレール
⑦ 竹ヒゴ	φ2mm	長さ2センチぐらい	1本	脚の支点

2 道具

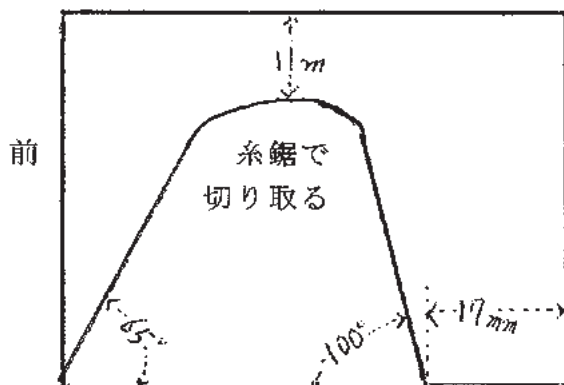
- ① クラフトナイフ ② 糸鋸又は卓上バンドソー ③ 木工ボンド
 ④ 輪ゴム ⑤ 紙やすり #80, #120
 ⑥ マジックインク又は水性エナメル、又はアクリル絵の具 (茶色、黒、白、黄)
 ⑦ 電動ドリル (2.5mm)

B 作り方

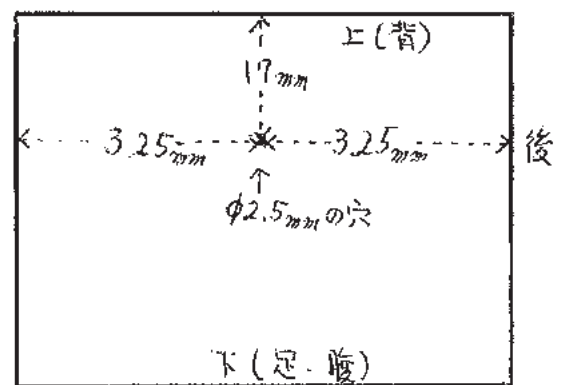
I 胴体を作る。

- I 材料を切る。 ①の檜板を(図1)のように切り取り、②のベニヤ板2枚 ㊶㊷
 を(図2)に示す位置に2.5mmの穴を開ける。

(図1) 原寸大



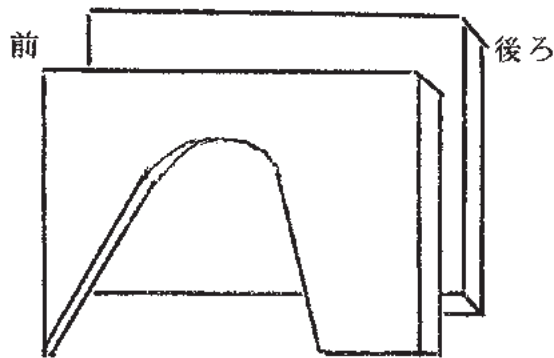
(図2) 原寸大



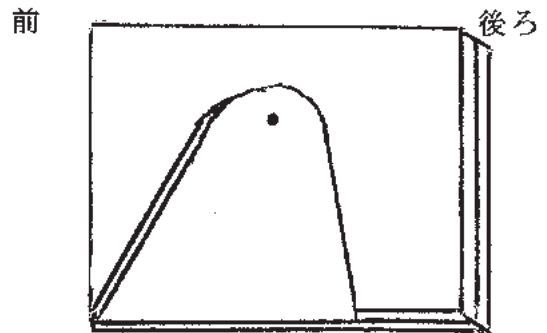
- 2 板を貼り合わせる。 (図1)で作った①の板と、(図2)で作った②のベニヤ板 ㊶を木工ボンドで正確に貼り合わせる。

洗濯はさみ、又は、輪ゴムでしっかり固定する。(図3)(図4)

(図3)



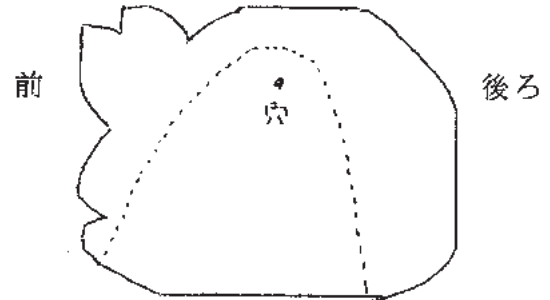
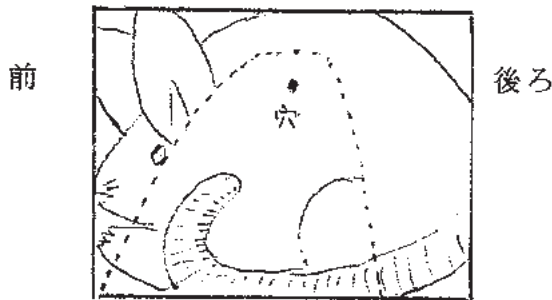
(図4)



- 3 動物の絵を描く (図3)(図4)の貼り合わせ板が乾いたら、②①のベニヤ板を、①板を挟むように重ね合わせ、セロテープでしっかりと仮止めする。①板の前後を確認して、簡単な動物の絵を描く(ここでは鼠)。

(図5)

(図6)



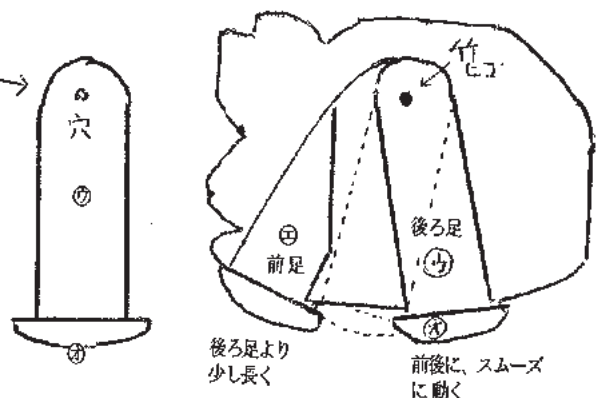
- 4 絵を切り取る。(図5)の絵を糸鋸で切り取る。(図6)

絵を切り取ったら仮止めのセロテープを除き、①の板を傍らに置く

(図7)

II 脚足を作る

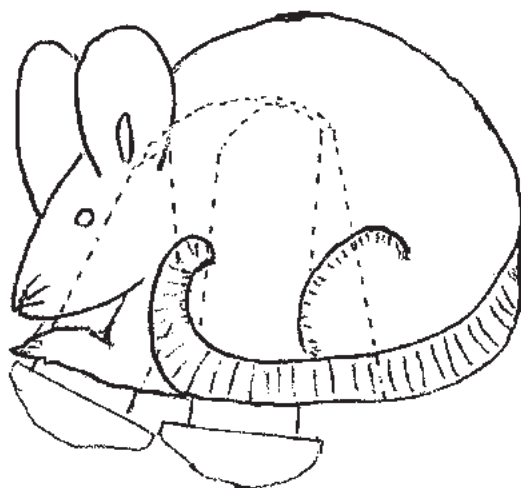
- ③檜板③を(図8)の形に削り、(図8)の・の位置に2.5mmの穴を開ける。
- ④檜板④を(図8)のように木工ボンドで固定する。(所用1時間)
③④を後ろ脚足とする。
- ④が乾いたら竹ヒゴ⑦を、(図7)の穴に通し、更に③④を重ねて通し、③④(脚足)がスムーズに、前後に動くことを確かめる。
- 前脚足は③檜板⑤で作る。⑤を(図7)の位置に胴体に密着させ、脚の長さを決める。後ろ脚よりほんの少し(1mmぐらい)長くする。前足が後ろ脚足と同じ長さだったり、短すぎ



たり長すぎたりしては歩かない。
セロテープで前足を仮止めして、更に
胴体④板を重ね合わせてセロテープで
仮止めする。

10度ぐらい傾斜した板の上を歩かせて
みる。うまく歩くかどうか。

- 5 うまく歩かないとき、
ヤジロベーの原理で歩くのであるから、
平面に鼠を立たせ、少し動かして様子
を見る。



- (1) 後ろにひっくり返る ⇒ お尻が重い。

(ア) 前足の部分に何かをくっつける。

セロテープを剥がして、前足の部分にドリルで穴を開け、魚釣り用の鉛を埋め込む。

(イ) セロテープを剥がして、お尻の部分にドリルで穴を開け、お尻を軽くする。
再度傾斜を歩かせて釣り合いを見る。OKだったら固定する。

- (2) 前方につん倒ってしまう

(ア) 前方が重い。お尻の部分に(1)の方法で鉛を埋め込む。

(イ) 前足の角度が大きすぎる。角度を下げる

再度釣り合いを見る。傾斜を歩かせて見る。OKだったら固定する。

- (3) 釣り合いは取れているが歩かない

(イ) 後ろ脚足がスムーズに動かない。後ろ脚足ははずし、脚の両側を紙^{やすり}で削り、動きをスムーズにする。

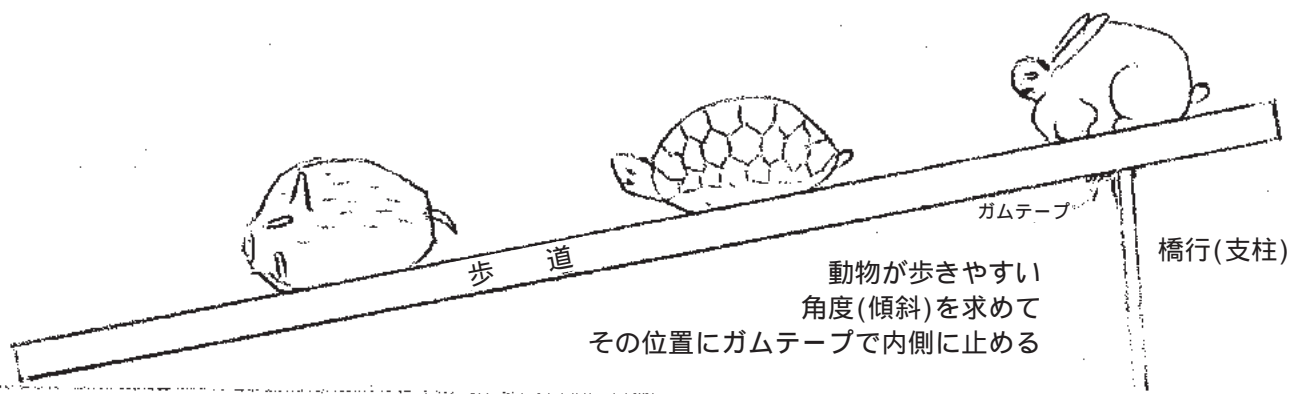
(ロ) 猪歩道の傾斜が弱い。傾斜を徐々に大きくする。

- 6 うまく歩けば、セロテープを剥がして、前足、④板、しっぽの順に木工ボンドで固定する。絶対に、後ろ足にボンドを付けてはいけない。後ろ足を支えている竹ヒゴは、全体を固定した後、表面の凸部を削り取り、紙^{やすり}でなめらかにした後、木工ボンドを竹ヒゴの部分に表面から塗って出来上がり。

ボンドが完全に乾いてから手に取って遊ぶ、又は色を塗る。

- III 歩道を作る。 材料⑤⑥で歩道を作る。木工ボンドで固定。動物がよく歩く傾斜を定めて、橋桁をセロテープで開閉自由になるように留める。

- IV 色を塗る 動物(ここでは鼠)に似せて色を塗る。歩道にも絵を描いたり色を塗る。塗料はエナメルか、アクリル絵の具、マジックインク、マーカーでも良い。



「木のおもちゃをつくろう」 1月20日（日）

当講座には、親子5組を含む17人の受講者が参加しました。講師の上運天先生やボランティアに丁寧到手ほどきを受けながら、今年の干支のネズミの歩くおもちゃをつくりました。受講生らはネズミの形にカットされた板に、思い思いのネズミの絵を描き、裏になる板と脚の部分を組み立てていきました。また、並行してネズミが歩く道も組み立てていきました。一番、脚の位置が非常に重要になるので、大分苦戦していました。少しずれるだけで、なかなかネズミが歩いてくれません。ネズミが歩いてくれず、四苦八苦する親子もいましたが、最後にはなんとか歩かす事が出来、笑顔で講座を終える事ができました。

今回は、講師の先生が全部品の形を整えた状態で用意して下さったので、時間内に作製することができました。

しかし、受講生が募集の半分の人数だったため、もっと広報に工夫が必要だと感じました。



どの様にやるのかな？



なかなか難しいネ



上手く歩くかな



皆、真剣です

しっくいシーサーをつくろう

講師：奥原崇典氏(奥原製陶所)

2/17(日) 9:00~15:00

場所 博物館実習室

定員40名

材料費：1000円(1個)

参加希望の方は

連絡先(氏名・住所・電話番号・参加人数)
を明記の上FAXまたは電話でお申込下さい



問／沖縄県立博物館・美術館

TEL：098-941-8200

FAX：098-941-2392

「しっくいシーサーをつくろう」実施計画

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成20年2月17日(日) 9:00 ~ 15:30

3 対象者

親子・一般

4 募集人員

40名(多数の場合は抽選)

5 日 程

受付	9:00 ~ 9:15
開講式	9:15 ~ 9:30
始めの言葉	司会 (文化の杜:町田)
講師紹介	教育普及担当 (赤嶺)
終わりの言葉	司会
講 座	
・製作説明	9:30 ~ 9:45
・製作作業(前半)	9:45 ~ 12:00
・昼食	12:00 ~ 13:00
・製作作業(後半)	13:00 ~ 15:15
後片づけ	15:15 ~ 15:30
閉 講 式	15:30 ~ 15:45
始めの言葉	司会 (文化の杜:安元)
運営責任者挨拶	
講師によるまとめ (奥原)	
記念撮影 (宮平)	
終わりの言葉	司会

6 講 師

奥原 崇典先生 奥原製陶

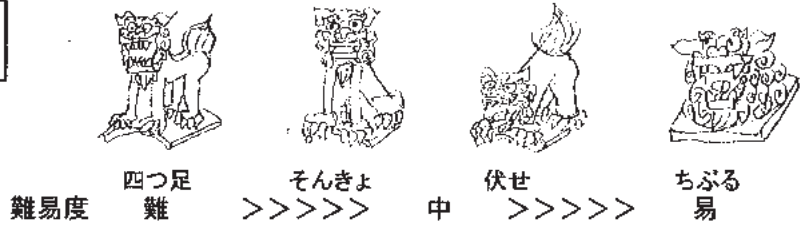
7 役割分担

(1) 当日までの役割分担

事業起案及び講師依頼	赤嶺
マスコミ各社への受講生募集依頼	文化の杜
受講生受け付け	文化の杜
報償費起案及び講師打ち合わせ	赤嶺
説明資料作成	赤嶺・宮平
報償費支払い事務	文化の杜
材料・用具等の諸準備	文化の杜

漆喰シーサー制作の順序

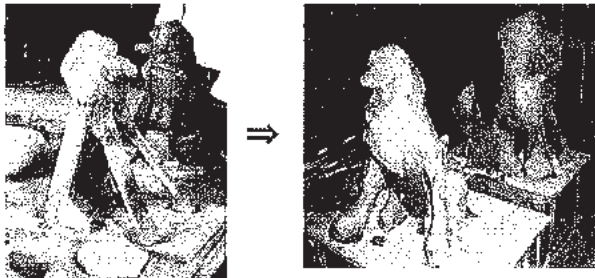
1 かたちを決める



2 骨作り



3 あらづけ



4 仕上げ塗り



5 着彩

※絵の具で着彩して、完成です！仕上げ塗りが半乾きの状態で着色すると、フレスコ画と同様、半永久的に色褪せしません。

完成！



「しっくいシーサーをつくろう」 2月17日（日）

当講座には、親子9組を含む40人余の受講者が参加しました。今回は一日で出来るしっくいシーサーを、講師の奥原宗典先生や先生のお手伝いの方に、丁寧に指導していただきました。

まずは、シーサーの作り方の映像を見てから作業に入りました。

土台となる瓦の上に、割った瓦で胴体や脚を組み、しっくい固定していきます。また、一日で仕上げるため、瓦を重ねたりする部分には接着剤を使用し、ある程度の骨組みが整ったところでお昼時間を利用して、しっくいを乾燥させていきます。後半は骨組みにさらにしっくい肉付けをし、好きな色を塗って完成です！肉付けの際には、ビー玉やおはじき、サンゴ等を使い、おのおの雰囲気のあるユーモアたっぷりのシーサーが出来上がりました。

今回は、大人気のシーサー作りとあって、参加希望が多くありました。この人数で作業を行うには、実習室ではスペースが狭かったため、動きづらいところがありました。今後は、定員数や作業スペースの検討が必要かと感じました。



たのしい～



しっくい固定しよう



しっかり作らなきゃ



ちょっと、支えて!!



ユーモアたっぷりのシーサーだね



シーサーを囲んで記念撮影

「博物館探検」 3月16日（日）

当講座には、10人の受講者が参加しました。講座は、当館の赤嶺学芸員を講師に「博物館学芸員の仕事を体験しよう～台帳記入～」という内容で、実際に資料などを触りながら進めました。

10名の受講生は、学芸員の仕事などについての説明後、おのおの1点ずつ資料を選びその資料を撮影し、自分が選んだ資料が何であるかをよく観察しながら、資料台帳に書き込んでいきました。

資料は、昔よく見かけた事のあるジェラルミン製の鍋や、アンダガーマなどですが、それを調べていくという事は、皆さん始めてとあって、どう記入すればいいの？と困惑していました。

最初は戸惑っていた受講生も事典や図録などを開き、名称や用途を調べ、サイズを測って特徴を記入していました。

このような講座は始めてということもありましたが、博物館で働いている学芸員の仕事について、少しは分かってもらえたのではないのでしょうか。そこから、博物館に興味や関心を持っていただければと思います。

今回は、10名を募集して行いましたが、終えてみて、目の行き届く範囲を考えると8名位でもいいのかと、感じました。



博物館学芸員のお仕事とは...



1点ずつ撮影



資料のサイズもこまかく計測



講座の様子

博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する「沖縄の自然・歴史・文化」について、分かりやすく楽しく学ぶことを目的に1974（昭和49）年から行っている事業である。

講座では、講師の方々の研究成果やエピソードを交えた講演会形式や、展示会関連の講演会、展示と関わる内容での各分野の講演、展示解説、現地研修などを通じて、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。今年度は、新館開館記念展関連の講座など6講座を開催し、約960余人の方が受講した。

博物館文化講座実施要項

1. 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

2. 内容

当博物館の展示内容と関連する自然・人類学・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学習できるように企画されている。

3. 実施日と場所

実施日：毎月1回、第3土曜日

午後2時～4時までの2時間

場所：特に指定がない場合は、講堂（3F）

4. 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約受付はしない。

講堂の収容人数（210名）の定員とする。

回数	期 日	演 題	講 師 名	内 容	定員
265	11月10日 (土)	開館記念特別講演 「港川人の来た道」	馬 場 悠 男 (国立科学博物館人類研究部部長)	特別展関連催事。港川人のルーツを最新の研究成果を踏まえて分かりやすく解説する。	210
266	11月24日 (土)	「動物化石から見た港川人のいたころの沖縄」	長谷川 善 和 (群馬県立自然史博物館館長)	特別展関連催事。港川フィッシャー遺跡発掘で出土した動物化石からみる当時の自然や、絶滅したシカなどの化石研究について語る。	210
267	12月15日 (土)	対談1 「沖縄人のルーツを探る」	土 肥 直 美 (琉球大学医学部准教授) 安 里 進 (県立芸術大学教授)	特別展関連催事。港川人を始めとする、先史時代の沖縄の人々の暮らしや出土品などから分かってきた文化を語る。	210
268	1月12日 (土)	対談2 「化石の宝庫・沖縄の可能性」	大 城 逸 朗 (おきなわ石の会会長) 諏 訪 元 (東京大学総合研究博物館教授)	特別展関連催事。人類化石出土の多く見られる沖縄のその土壌や、今後の化石人骨の発掘や発見について語る。	210
269	2月16日 (土)	「首里・那覇港図屏風」から見た近世の琉球社会 - 港町・交易・紛争 -	豊見山 和 行 (琉球大学教育学部教授)	総合展示歴史部門展示室に展示展開される那覇港とその周辺について解説する。	210
270	3月15日 (土)	「博物館新館の展示物をつくる！～染織品復元を例にして～」	与那嶺 一 子 (県教育庁文化施設建設室主任学芸員)	博物館新館の展示物作製に関わった中での、復元作業の奥深さや楽しさを語る。	210

■■■ 沖縄県立博物館 ■■■

文化講座スタート

特別講演：「港川人の来た道」

日時：11月10日（土）午後2時～4時

場所：県立博物館・美術館3階講堂

講師：馬場悠男氏（国立科学博物館人類研究部部長）

定員200人 ※ 入場無料

定員に達し次第締め切らせていただきます。

県立博物館新館開館記念展で展示されている4体の港川人。1万8千年前の沖縄に住んでいた彼らは、沖縄人や日本人のルーツを探る上で重要なカギを握っています。彼らはどこからやってきて、その後どうなったのか、最新の研究成果を踏まえながらわかりやすく講演していただきます。



港川人1号

おもしろくて ためになる 文化講座今後の予定

日時	演題	講師	内容
11月24日（土）	港川フィッシャー発掘のころ（仮）	長谷川善和氏 <small>（群馬県立自然史博物館館長）</small>	開館記念展関連事業。港川フィッシャー遺跡から出土した動物化石からみる当時の自然や絶滅したシカなどの化石研究について語る。
12月15日（土）	対談1 沖縄人のルーツを探る	土肥直美氏 <small>（琉球大学医学部准教授）</small> 安里進氏 <small>（県立芸術大学教授）</small>	開館記念展関連事業。港川人をはじめとする、先史時代の沖縄の人骨や遺跡からの出土品を通して明らかにされる文化を語る。
1月12日（土）	対談2 化石の宝庫・沖縄の可能性（仮）	大城逸朗氏 <small>（おきなわ石の会会長）</small> 諏訪元氏 <small>（東京大学総合研究博物館教授）</small>	開館記念展関連事業。人類化石の宝庫である沖縄の特性や今後の人類学研究における沖縄の可能性について語る。
2月16日（土）	近世琉球について	豊見山和行氏 <small>（琉球大学教育学部教授）</small>	常設歴史部門展示室に展示されている那覇港の屏風絵をもとに近世琉球を読みとく。
3月15日（土）	博物館新館の展示物をつくる！ <small>～染織品の復元を例にして～</small>	与那嶺一子氏 <small>（県教育庁文化施設建設室 主任）</small>	博物館新館の展示物の作製に関わった経験をふまえ、復元作業の奥深さや楽しさを語る。

※時間はいずれも午後2時～4時、講堂で予定

問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 TEL098-941-8200

■■■ 沖縄県立博物館 ■■■

文化講座

特別講演：「動物化石からみた
港川人のいたころの沖縄」

日時：11月24日（土）午後2時～4時

場所：県立博物館・美術館3階講堂

講師：長谷川善和氏（群馬県立自然史博物館館長）

定員200人 ※ 入場無料

定員に達し次第締め切らせていただきます。

県立博物館新館開館記念展関連事業。港川フィッシャー遺跡から出土した動物化石からみる当時の自然や絶滅したシカの化石研究について語る。



おもしろくて ためになる 文化講座今後の予定

日時	演題	講師	内容
12月15日（土）	対談1 沖縄人のルーツを探る	土肥直美氏（琉球大学医学部 准教授） 安里進氏（県立芸術大学教授）	開館記念展関連事業。港川人をはじめとする、先史時代の沖縄の人骨や遺跡からの出土品を通して明らかにされる文化を語る。
1月12日（土）	対談2 化石の宝庫 ・沖縄の可能性（仮）	大城逸朗氏（おきなわ石の会会長） 諏訪元氏（東京大学総合 研究博物館教授）	開館記念展関連事業。人類化石の宝庫である沖縄の特性や今後の人類学研究における沖縄の可能性について語る。
2月16日（土）	近世琉球について	豊見山和行氏 （琉球大学教育学部教授）	常設歴史部門展示室に展示されている那覇港の屏風絵をもとに近世琉球を読みとく。
3月15日（土）	博物館新館の展示物をつくる！ ～染織品の復元を例にして～	与那嶺一子氏 （当館 主任学芸員）	博物館新館の展示物の作製に関わった経験をふまえ、復元作業の奥深さや楽しさを語る。

※時間はいずれも午後2時～4時で博物館講堂で行います。

問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 TEL098-941-8200

■■■ 沖縄県立博物館 ■■■

文化講座

特別対談パート1

「沖縄人のルーツを探る」

港川人をはじめとする、先史時代の沖縄の人骨や、遺跡からの出土品を通して明らかにされる文化を語る。

日時：12月15日（土）午後2時～4時

場所：県立博物館・美術館3階講堂

講師：土肥直美（琉球大学医学部准教授）

安里進（県立芸術大学教授）

★入場無料 ※定員200人

定員に達し次第締め切らせていただきます。



おもしろくて ためになる 文化講座今後の予定

日時	演題	講師	内容
1月12日（土）	対談2 化石の宝庫 沖縄の可能性（仮）	大城逸朗氏（おきなわ石の会会長） 諏訪元氏（東京大学総合 研究博物館教授）	開館記念展関連事業。人類化石の宝庫である沖縄の特性や今後の人類学研究における沖縄の可能性について語る。
2月16日（土）	博物館新館の展示物をつくる！ ～染織品の復元を例にして～	与那嶺一子氏 （当館 主任学芸員）	博物館新館の展示物の作製に関わった経験をふまえ、復元作業の奥深さや楽しさを語る。
3月15日（土）	近世琉球について	豊見山和行氏 （琉球大学教育学部教授）	常設展歴史部門展示室に展示されている那覇港の屏風絵をもとに近世琉球を読みとく。

※時間はいずれも午後2時～4時で博物館講堂で行います。

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 TEL098-941-8200

■■■ 沖縄県立博物館 ■■■

文化講座

特別対談パート2

「化石の宝庫 沖縄の可能性」

人類化石の宝庫である沖縄の特性や今後の人類学研究における沖縄の可能性について語る。

日時：1月12日（土）午後2時～4時

場所：県立博物館・美術館3階講堂

講師：大城 逸朗（おきなわ石の会会長）

諏訪 元（東京大学総合研究博物館教授）

★入場無料 ※定員200人

定員に達し次第締め切らせていただきます。



おもしろくて ためになる 文化講座今後の予定

日時	演題	講師	内容
2月16日（土）	博物館新館の展示物をつくる！ ～染織品の復元を例にして～	与那嶺一子氏 （当館 主任学芸員）	博物館新館の展示物の作製に関わった経験をふまえ、復元作業の奥深さや楽しさを語る。
3月15日（土）	近世琉球について	豊見山和行氏 （琉球大学教育学部教授）	常設展歴史部門展示室に展示されている那覇港の屏風絵をもとに近世琉球を読みとく。

※時間はいずれも午後2時～4時で博物館講堂で行います。

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 TEL098-941-8200

■■■ 沖縄県立博物館 ■■■

文化講座

「博物館新館の展示物を作る」 ～染織品の復元を例にして～

博物館新館の展示物の作製に関わった経験をふまえ、
復元作業の奥深さや楽しさを語る。

日時：2月16日（土）午後2時～4時

場所：県立博物館・美術館 3階講堂

講師：与那嶺 一子（沖縄県立博物館・美術館
主任学芸員）

★入場無料 ※定員200人
定員に達し次第締め切らせていただきます。



おもしろくてためになる

文化講座 三月の予定

「那覇港図屏風」から見た 近世の琉球社会 —港町・交易・紛争—

豊見山和行氏（琉球大学教育学部教授）

日時：3月15日（土）午後2時～4時
場所：県立博物館・美術館 3階講堂

常設展歴史部門展示室に展示されている那覇港の屏
風絵をもとに近世琉球を読みとく。

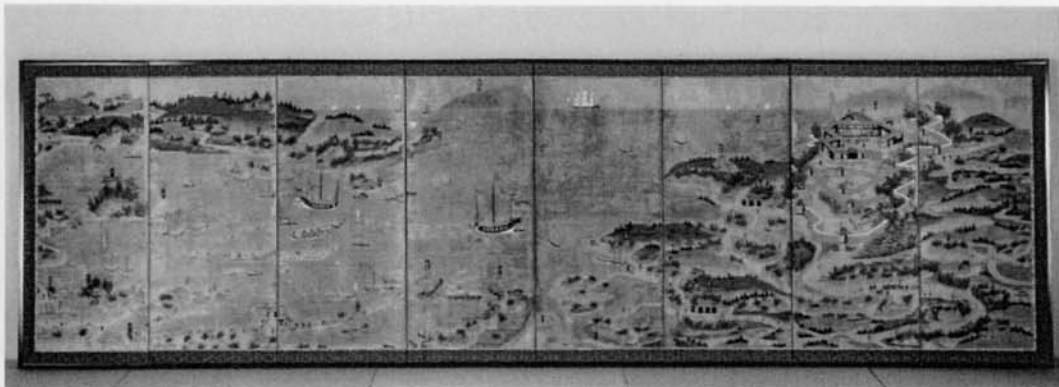
お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 Tel098-941-8200

■■■ 沖縄県立博物館 ■■■

文化講座

「那覇港図屏風」から見た近世の琉球社会 — 港町・交易・紛争 —

常設展歴史部門展示室に展示されている那覇港の屏風絵をもとに近世琉球を読みとく。



日時：3月15日（土）午後2時～4時

場所：県立博物館・美術館 3階講堂

講師：豊見山和行氏（琉球大学教育学部教授）

★入場無料 ※定員200人

定員に達し次第締め切らせていただきます。

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 Tel.098-941-8200

第365回「港川人の来た道」 11月10日（土）

博物館が開館して最初となった当講座は、開館記念展「人類の旅～港川人の来た道～」の関連講座で、国立科学博物館人類研究部の馬場悠男部長を招へいして「港川人の来た道」と題して講演していただきました。

先生には、平成18年度に行われた開館イベント講演会や、今回の展示会などでも、ご協力をいただいています。

講演会では、パソコンを使っての映像を見ながら、1970年に発見された港川人が“どのような人”で、“どこから来て”、そして、“琉球人の祖先なのか”など分かり易くお話ししていただきました。その中で、世界的に見た人類の移動や、港川人が私たち沖縄人とどう繋がっているのかなど、非常に興味深いお話を聞く事が出来ました。

会場に訪れた約200人余の受講者は熱心に耳を傾け、沖縄人のルーツについての興味深い話に聞き入っていました。



第366回「動物化石から見た港川人のいたころの沖縄」

11月24日（土）

当講座は、開館記念展「人類の旅～港川人の来た道～」の関連講演会第2弾として、群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長を招へいして、「動物化石から見た港川人のいたころの沖縄」と題して講演していただきました。

講座では、パソコンを使って港川人の出土した港川フィッシャー遺跡や伊江島ゴヘズ洞、久米島下地原洞などのスライドを見ながら、遺跡の立地や形態、なぜ人骨化石を含め、動物化石が多く出土したのかを分かり易く解説していただきました。また、港川フィッシャーからは、現在ヤンバルのみに生息するヤンバルクイナの化石も出土していることから、港川人が住んでいた頃は、本島南部もヤンバルの様な森だったことが、推測されるということも分かりました。

講座のなかでは、もうすでに絶滅してしまっているシカの仲間のリュウキュウムカシキョンやリュウキュウジカ、鳥類化石などが動物化石として、多く出土している事などが紹介されました。

講座に参加された140人余の受講者は、講演を聴講することで、はるか昔に沖縄に住んでいた港川人や野山を駆け回っていた動物たちの様子が、想像出来たのではないでしょうが。





第367回「沖縄人のルーツを探る」(対談1)

12月15日(土)

当講座は、開館記念展「人類の旅～港川人の来た道～」の関連講座、対談方式の第1弾として、琉球大学医学部の土肥直美准教授、県立芸術大学の安里進教授を招へいして、「沖縄人のルーツを探る」と題して対談していただきました。

講座では、安里氏に、「琉球＝沖縄人の誕生」と題して、「沖縄人」には<生物学上の沖縄人>、<意識や文化としての沖縄人>がいるとして、今回は意識や

文化としての沖縄人のルーツについて分かり易くお話ししていただきました。

続いて、土肥氏に、「骨から見える沖縄人の歴史」と題して、沖縄各地の遺跡から出土する人骨の特徴を通して見えてくる沖縄人の歴史、また、現代沖縄人の特徴の形成や、それらの特徴は港川人まで遡れるのかなど、最近の人骨調査の成果を中心に、丁寧にお話ししていただきました。

講座には、約200人余の受講者が参加し、私たちの沖縄に住んでいた人類はどのような人々だったのか、そして、私たちと繋がっているのかなど、興味深く聞き入っていました。



第368回「化石の宝庫・沖縄の可能性」(対談2)

1月12日(土)

当講座は、開館記念展「人類の旅～港川人の来た道～」の関連講座、対談方式の第2弾として、東京大学の諏訪元教授、おきなわ石の会の大城逸郎会長を招へいして、「化石の宝庫・沖縄の可能性」と題して対談していただきました。

講座では、諏訪氏に、「アフリカの人類化石」と題して、同氏が研究されているアフリカではどのように化石が発見されるのか、発見のためにはどのような努

力が必要なのかについて具体例をあげながらお話ししていただきました。

続いて、大城氏には、「琉球列島のこと」と題して、自身が調査の対象としている洞窟から出土する人類化石、動物化石を中心に、化石がなぜ沖縄から豊富に出土するのか、その地質的特徴や化石の出土する地域についてなど、分かり易くお話ししていただきました。

講座の最後には、会場の受講者に書いていただいた質問にお答えしていただく等、より充実した内容になりました。

記念展開連講座最後となる当講座には、150人余の参加があり、好評の内に終わることが出来ました。



第369回「博物館新館の展示物をつくる！～染織品復元を例にして～」 2月16日（土）

当講座は、当館の与那嶺一子学芸員を講師に「博物館新館の展示物をつくる！～染織品復元を例にして～」と題して、講演していただきました。

与那嶺学芸員は、15年度から当館の建設・展示に関わっており、講座では、博物館の常設展示室に展示されている“伊是名阿茂加那志”の衣裳の復元について、お話していただきました。

現在、伊是名村教育委員会が所蔵している“伊是名阿茂加那志”の現存衣裳は、大分痛み、生地の色も褪せ、模様なども欠けている部分もあり、その生地の色や模様をなす刺繍の方法など、本来の衣裳の姿を復元するのに苦労したとのお話でした。時代背景を考えて、中国や日本、東南アジアの衣裳や刺繍の方法などと比較などを重ね、約2年の歳月をかけて検討し、復元してきたとのことでした。

講座には、約70人の受講者が聴講し、展示資料を観るだけでは分からない、資料の持つ意味や、資料から見える歴史背景などをより理解することの出来た内容だったと思います。



第370回「『首里・那覇港図屏風』から見た近世の琉球社会～港町・交易・紛争～」 3月15日（土）

今年度最後となる当講座は、琉球大学の豊見山和行教授を招へいして「『首里・那覇港図屏風』から見た近世の琉球社会～港町・交易・紛争～」と題して講演していただきました。講座には当館講堂を埋め尽くす206名の受講者が詰め掛け、先生の丁寧な解説に熱心に聞き入っていました。

講座では、OHC(実物投影機)を使用し、「那覇港図屏風」や「首里那覇港図屏風」などを拡大した映像を見ながら那覇港図に描かれた絵を、分かり易く解説していただきました。

また、『御物城玉城親雲上日記』や『唐物方日記』などと併わせて、絵を解読していただけたので、その屏風の時代背景までも見え、非常に楽しく受講する様子が見られました。

今回の講座を通して、屏風や絵図などに描かれている絵をより詳しく観察していくこと、関連する書物やそのほかの資料と併せて見ることで、描かれた時代背景などを理解することが出来、より歴史を楽しむコツを教えていただけたと思います。



博物館展示解説会等

展示解説会は、常設展の展示解説と、特別展・企画展の展示解説とを開催している。展示解説会では、博物館の展示内容に関する資料など、学芸員の広い視点から分かり易く解説している。また、展示資料がどのようなねらいのもと、展示されているかを知り、総合博物館の資料のつながりを理解できるような内容となっている。

館内見学会は、新館と言うこともあり、博物館をより知ってもらうことをねらいとして開催した。普段入ることの出来ない展示準備室などの部屋を学芸員が施設案内し、好評を博した。次年度はバックヤードツアーとして、開催する予定である。

博物館展示解説会実施要項

1. 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

2. 内容

当博物館の自然・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う展示品解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画している。

3. 実施日と場所

展示解説会

実施日：毎月1回、第2日曜日 午前10時～11時までの1時間

場所：常設展示室

館内見学会

実施日：12月、2月の第4日曜日 午前10時～11時までの1時間

場所：博物館内（展示準備室や工作室などの数部屋）

4. 受講方法

1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

(公平を期すため、館長による抽選。)

抽選の場合の当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

常設展展示解説会

回数	期日	講座内容	講師名	内容	定員
1	11月11日 (日)	常設展(自然) 展示解説	田中 聡(当館学芸員) 知念 幸子(当館学芸員)	総合展示自然部門展示室の展示解説をする。	15
2	11月17日 (土)	開館記念展 展示解説	知念 幸子(当館学芸員)	開館記念特別展の展示解説をする。	15
3	12月9日 (日)	常設展(考古) 展示解説	羽方 誠(当館学芸員)	総合展示考古部門展示室の展示解説をする。	15
4	1月13日 (日)	常設展(歴史) 展示解説	稲福 恭子(当館学芸員)	総合展示歴史部門展示室の展示解説をする。	15
5	2月10日 (日)	常設展(民俗) 展示解説	久場 政彦(当館学芸員)	総合展示民俗部門展示室の展示解説をする。	15
6	3月9日 (日)	常設展(美術工芸) 展示解説	平川 信幸(当館学芸員)	総合展示美術工芸部門展示室の展示解説をする。	15

館内見学会

回数	期日	講座内容	講師名	内容	定員
1	12月22日 (土)	館内見学会	赤嶺 敏(当館学芸員)	普段見る事の出来ない博物館内の各部屋を見学する。	15
2	2月24日 (日)	館内見学会	赤嶺 敏(当館学芸員)	普段見る事の出来ない博物館内の各部屋を見学する。	15

博物館展示解説会・館内見学会の様子

(展示解説会：毎月第2日曜日、館内見学会：各月第4土曜日実施)

当館では今年度、5回の学芸員による常設展示解説会と、1回の特別展示解説会、2回の館内見学会を行いました。いずれも、展示室での解説音声、展示室のスペースを考慮して、定員を15名としました。

展示解説会では、各学芸員からは、丁寧な解説があり、参加者にも興味深げに説明資料を見ながらメモを取っている方もいました。また、展示解説会をしている途中から、来館者の方も加わって、終わる頃には、多少人数が増えている時もありました。実際に展示をつくり上げた学芸員だからこそ話す事の出来る裏話などもあり、大変有意義な解説会を行う事が出来ました。

館内見学会は、新館ということもあり、一般への施設案内も兼ねて行いました。1回目は、3階の特別展示室・企画展示室での展示会の際に、作業場として使用する展示準備室や、高性能な顕微鏡が配置されている保存科学室を中心に見学しました。2回目は1階の常設展示室裏の撮影室、ホルマリン漬けの資料が保存されている液浸標本室、資料の修復を行う修理修復室を中心に見学しました。どの部屋も、普段の博物館見学では行くことの出来ない部屋です。参加者は、この見学会で博物館の裏の仕事や、博物館の機能を垣間見ることが出来た様子でした。

展示解説会、館内見学会は、開催を増やして欲しいとの要望もあり、次年度は回数を増やして開催していきます。また、館内見学会は、バックヤードツアーと名称を改めて行っていく予定です。



開館記念展の展示解説（知念学芸員）



常設展示での歴史展示解説（稲福学芸員）



常設展示 自然史部門室の展示解説（田中学芸員）



常設展示 民俗部門室の展示解説（久場学芸員）

ボランティア養成事業

1. 平成19年度博物館ボランティア養成講座実施計画

(1) 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場を提供するため、博物館支援活動を計画する。この活動は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かで適切なサービスへも寄与する。

(2) 主催 文化施設建設室（沖縄県立博物館・美術館）

(3) 内容

「沖縄県立博物館友の会」のボランティア部会とともに活動を行う。

平成19年度は開館年であるため、常設展示や企画特別展示の案内ならびに普及部門の支援ができるように養成講座を実施する。

展示資料の案内

「常設展示室」「企画特別展示室」において、展示資料の案内、質問対応などを行う。

普及事業の支援

「ふれあい体験室」「実習室」を中心とした、参加体験学習の指導補助などを行う。

(4) 日時 平成19年7月21日(土)～平成19年10月13日(土)まで

毎週土曜日、午後2時～4時、4週のうち1週は土曜日と日曜日（午前10時～）の2回（講座の時間及日時については展示作業等の状況を見て変更することもある。）

(5) 場所 沖縄県立博物館・美術館講堂及び講座室

(6) 対象

- ・ 「沖縄県立博物館友の会」のボランティア部会とともに活動できる方。
- ・ 沖縄県立博物館・美術館において本講座を受講後、ボランティアとして活動に参加する。意欲のある一般成人。
- ・ 9分野（総合展示・自然史・人類学・歴史・考古・美術工芸・民俗・ふれあい体験室・学校団体）につき25人程度。
- ・ 月曜日をのぞく、火曜日から日曜までのいずれかの曜日で二週間に半日以上活動できる方。

(7) 申込期間及び方法

- ・ 平成19年6月12日～6月22日
- ・ 電話連絡による申込（定員を超える場合は、先着順とする。）
- ・ 問合せ先 (098)851-5401 教育普及担当(赤嶺・宮平)

(8) ボランティア登録までの流れ

- ・ 募集期間 平成19年6月12日～22日(金)まで
- ・ 説明会 平成19年7月10日(火)午後5時30分～
- ・ 基礎講座 平成19年7月28日
- ・ 専門講座 平成19年9月～10月
- ・ 正式登録

(9) 日程表

1	接遇の基本について	7月21日(土)	基礎講座	外部講師
2	博物館活動	7月28日(土)		萩尾班長
3	総合展示室	8月4日(土)		園原
4	ふれあい体験室	8月5日(日)		赤嶺
5	自然史展示室	8月11日(土)		田中・知念
6	考古展示室	8月18日(土)		羽方
7	美術工芸展示室	8月25日(土)		平川
8	民俗展示室	9月1日(土)		久場
9	歴史展示室	9月2日(日)		稲福
10	特別展	9月8日(土)		藤田・山崎
11	自然・教育普及・総合	9月15日(土)	分野別	田中・山崎・赤嶺・宮平
12	考古・歴史・民俗・美術工芸	9月22日(土)		羽方・稲福・久場・平川
13	自然・教育普及・総合	9月29日(土)		田中・藤田・赤嶺・宮平
14	考古・歴史・民俗・美術工芸	10月6日(土)		羽方・稲福・久場・平川

(10) 役割分担

総括 教育普及担当

ボランティア担当	主担当	副担当
教育普及班	赤嶺	宮平
自然科学班	()	()
人文科学班	()	()
総合展示班	()	()

ボランティア担当の役割

- ア. ボランティア応募にかかるそれぞれの班の受付、班員の推薦文に関すること。
(決定後の通知用紙は、教育普及担当が準備する。)
- イ. それぞれの担当の講座のときの、会場割振り、放送機器取扱、会場整理、出席点検などを行う。外部講師等に関しては教育普及担当が行う。
- ウ. ボランティア養成後の活動に関する企画、調整の補助。

2. 博物館ボランティア活動実施要項

平成5年7月1日
館長決裁

(趣旨)

第1条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティアを置くことができる。

(ボランティアの活動)

第2条 ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第3条 ボランティアの登録は、ボランティア講座の修了者、博物館友の会の会員、ボランティア活動を希望する者で、登録票(第1号様式)により申請のあった者の中から、博物館長(以下「館長」という。)が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿(第2様式)へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けたボランティアに対し、ボランティア登録証(第3号様式)を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長はボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消することができる。

(研修)

第4条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティアルームの設置)

第5条 館長はボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティアルームを設置する。但し、当分の間、案内コーナーをボランティアルームとして併用する。

(庶務等)

第6条 博物館ボランティアの登録及び活動の連絡調整は、博物館教育普及課において処理する。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付 則

この要項は、平成5年7月1日から実施する。

この要項は、平成12年8月1日から実施する。



体験キット学習



クバオージ作り体験



展示解説

3. ボランティア養成講座

(1) 説明会

趣旨

ボランティア募集に応募した参加者に、博物館のボランティア活動の趣旨や、今後の日程などを含めた確認事項等を説明し、周知徹底を図る。

日時・場所

平成19年7月10日（火）午後5時30分

教育庁文化施設建設室（沖縄県立博物館・美術館）講堂

式次第

- 1 室長挨拶 室長
- 2 職員紹介 班長
- 3 友の会激励のことば ボランティア部長 伊波
- 4 博物館ボランティア活動について 赤嶺
- 5 日程確認
- 6 講座中の諸注意事項
- 7 写真撮影と申込書記入

仕事分担

- ・ 室長挨拶文
- ・ ボランティアの趣旨説明
- ・ 講座日程表
- ・ 諸注意事項
 - 入館退館の方法
 - 台風等による休講等のお知らせについて
 - 緊急時の連絡方法
- ・ 申込書用紙
- ・ 案内板印刷
- 説明会当日の役割
- 放送機器
- 受付
- 表示（案内板）
- 写真撮影（名札作成用）
- 撮影（山崎）（稲福）（羽方）
- 整列・記録（赤嶺）（宮平）
 - 総合と歴史
 - 美工・民俗
 - その他



(2) ボランティア任命式（登録証交付式）

趣旨

ボランティア講座を終了した参加者に、博物館ボランティア任命書を授与し、今後の活動の予定や確認事項の説明を行い、活動への期待をする。

任命書授与式の日時・場所

平成19年10月18日（木）午後5時30分 予定

教育庁文化施設建設室（沖縄県立博物館・美術館）講堂

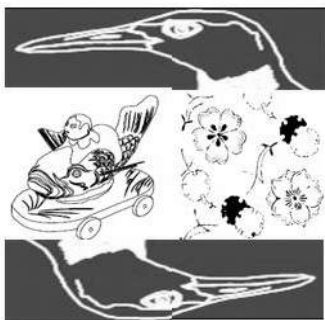
シナリオ

仕事分担

- 前日までの仕事
 - 浄書
 - 賞状
 - 押印
 - 室長挨拶



博物館ボランティア通信



養成講座 終了間近！

本年度の博物館ボランティア養成講座は、百名以上の希望者へ一斉に養成講座を実施することになりました。6月に公募し、7月から始まった10回の基礎講座も終了し、分野別の講座がそれぞれ2回開催される予定です。

博物館の展示工事や県民総決起大会等により、当初予定されていた日程が多少変更されましたが、台風などの天災にも影響されず終了を迎えようとしています。必修として12回の講座（希望者は14回）への連続の参加は、土曜や日曜の大切な時間のやりくりが大変だったと思います。お疲れ様でした。

さて、ボランティア養成講座終了後、「ボランティア養成講座閉講式」を行い、文化施設建設室々長へのボランティア申請後に、承認を得て本登録となります。それを受けて、「ボランティア登録証交付式」を行い、沖縄県立博物館・美術館の博物館ボランティアとして正式に登録されることとなります。その後、分野別の勉強会を何度か開催しながら、



講座風景

第二回養成講座「博物館活動について」
文化施設建設室博物館班長 萩尾俊章

11月1日の博物館新館オープンの日を迎えることとなります。

これほど多くのボランティアの希望者の方々を、一斉に養成することは初めての経験でした。新館への県民からの期待にこたえられるボランティアスタッフがそろったと思います。大いに期待しています。共に頑張りましょう。

ボランティア養成講座閉講式 10月6日（土）16時05分より 講座室にて
ボランティア登録証交付式 10月18日（木）17時30分より 講堂にて

分野を超えた協力をお願い

新館が開館した翌日の11月2日には、馬天小学校と東江小学校の来館が予定されています。11月には、合計26団体の訪問が予定されています。博物館での学習内容は、これから先生方と調整することになりますが、それぞれの分野のボランティアだけでは、とても配置できる数ではありません。

そこで、皆さんにお願いしたいのは、ご自分の希望された分野以外の、展示ガイドや体験サポートへの補助的な活動への協力を依頼したいと考えています。特に開館当初の時期には、多くの観覧者が想定される

ため、訪問する学校がスムーズに展示室に行きつけない可能性があると考えています。つまり、迷子になりそうな学校を、観覧や体験を予定している部屋まで案内するという活動も必要となります。ご自分の分野以外にも人員の足りない分野への協力をお願いします。

一つの分野のみに負担がかかりすぎないように皆様のご協力をよろしく願います。ボランティアの方々の力を結集し、博物館の開館を盛り上げていきましょう。

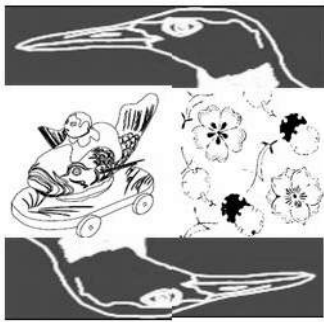
11月前半の 団体予約の状況

東江小学校（90人）	11/2 （金）
馬天小学校（70人）	11/2 （金）
宜野湾市教育委員会 （53人）	11/3 （土）
沖縄市中央公民館 （40人）	11/8 （木）
西崎小学校（116人） 4年生体験学習	11/8 （木）
浦添小学校（97人）	11/9 （金）
真地小学校（92人）	11/13 （火）
城東小学校（未定）	11/14 （水）
小祿南小学校（132人）	11/15 （木）
沖縄市中央公民館 （40人）	11/16 （金）
北中城中学校（179人）	11/16 （金）
坂田小学校（149人）	11/16 （金）
北美小学校（120人）	11/16 （金）

ボランティアの登録まで

- ◆ ボランティア登録申請
（9月29日～10月6日）
- ▼
- ◆ ボランティア養成講座閉講
（10月6日）
- ▼
- ◆ ボランティア登録
- ▼
- ◆ ボランティア保険加入
（博物館で行う）
- ▼
- ◆ ボランティア認証交付式
（10月18日午後5時30分～）

博物館ボランティア通信



93名の登録ボランティア

本日、ボランティアとして認証された皆さん、おめでとうございます。今年度博物館ボランティア養成講座受講後に登録を希望された93名の皆さんが、正式に博物館ボランティアとなりました。これから博物館の発展のために、協力をお願いします。

その中で、皆さんと博物館との連携をとっていただくために、世話係を各分野ごとに願いました。その方々は、以下の表のように決まりました。これから博

物館とボランティアの皆さんのパイプ役としての活動をお願いします。

今日からそれぞれの分野で、展示ガイドや体験サポートを想定した勉強会を、担当学芸員と連携を取りながら進めてください。博物館職員も展示の微調整がかなり多くなることは予想されますが、できるだけ要望にそえるように工夫していきます。各分野の正副の世話係を中心に計画を立てていただくようお願いします。

インフォメーション ボックス の 名前募集

これから皆さんに活動していただく中で、展示ガイドの皆さんの活動は、小中学校生の団体訪問の際の、質問対応をお願いすることになります。その時に質問に対応するスタッフであることを示すインフォメーションのボックスを製作する予定です。このボックスの名前をボランティアの皆さんから募集したいとおもいます。

ちなみに九州国立博物館は「?ボックス」です。

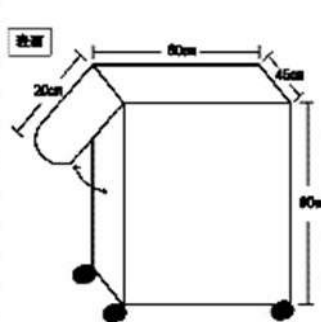
出来れば郷土色のある様な、楽しい名前にしたいと考えています。よろしくをお願いします。

よい名前が浮かんだら、ボランティア担当の赤嶺・宮平にご連絡ください。

各班世話係

	正	副
総合	宮城隆	長田由美子
歴史	我那覇留美	金城きみ子
自然	潮平瑞代	波平恵子、中村愛
考古	服部毅	安村重保
美術工芸	平田由美	渡慶次洋子
歴史	新田宗秀	當間チズ子
民俗	宮里定典	銘苅清貴、熊谷フサ子
人類学	浅黄真希	
ふれあい体験室	仲地フミ	池原興和
体験学習	喜屋武禮子	

展覧室クエスチョンボックス 仕様



日	月	火	水	木	金	土
				1	2 11:40東江小6年90人 13:00馬天小5年72人	3 宜野湾市教育委員会53人
4	5	6	7 西崎中(未調整)	8 9:30沖縄市中央公民館40人 10:00西崎小4年116人 10:00退職女性教員会	9 9:30浦添小5年97人 13:00表千家	10
11	12	13 9:00真地小4年92人 10:45鳥尻養護46人 14:45うるま市老人会	14 城東小4年(未調整) 13:00神原小4年105人	15 9:00小祿南小6年132人	16 9:30北中城中179人 9:30沖縄市中央公民館 13:30坂田小5年149人 北美小5年(未調整)	17
18	19	20 沖縄市中央公民館	21 9:15小祿小(未調整) 11:00大里北小 15:00渡嘉敷小	22 9:00阿波連小(未調整) 9:30伊良波小 10:00松川小(未調整) 13:00越來小	23	24
25	26	27 9:30大山老人クラブ	28 仲井真小(未調整)	29 10:00宜野湾市教友会 9:30嘉芸小学校(未調整)	30 与儀小(未調整) 10:00嘉陽小 10:00桃原小 13:00三原小	

博物館ボランティア通信

誠に困！！

体験サポート人手不足

博物館は、11月1日の開館以来4万4千人の入場者がありました。特に文化の日の無料入館日には、9千9百人の入場者を記録しました。

博物館ボランティアの皆様には、開館初日からふれあい体験室や学校団体受け入れなどにご協力いただき、心から感謝しております。

さて、今年度の活動の中心は、学校からの博物館訪問の対応となっています。館あてには、前回のボランティア通信でもお知らせしましたように、4年生の「昔のくらし」や5年の社会見学、6年の修学旅行などと博物館で体験や観覧への希望が多くあります。開館以来、東江小、馬天小をはじめ11/18現在12校の対応を進めてきました。

その中でも西崎小、真地小、神原小の3校は4年生の「昔のくらし」の体験学習を伴う内容となりました。館では体験学習の内容として、洗濯、着衣、運搬、糸車、臼挽き、清掃を準備しました。さらに、民俗展示ガイドや自然史展示ガイドの要望も加わることもあ

り、多くの人手が必要となっており、対応に困窮しております。

また、ふれあい体験室は、指定管理の1人の職員の配置はあるものの、混雑する週末や休日の人手が足りない状況が続いています。とくに日曜日の午後は、不足している状況です。

いざ開館してみると、学校からの要望に大きな偏りがあることと、体験補助への人手が多く必要となっている現状があります。募集を行った当初には想定していなかった活動への対応が必要となっております。

特に展示ガイドの皆さんで、これまで一度も活動に参加されていない方は、ご自分の分野の勉強は、継続されながらも、当面の間は、誘導や体験サポート、ふれあい体験室への協力をお願いしたいと考えています。活動内容は、下記のとおりですが、まずは、試験的に参加されることで理解いただけると思いますのでご参加・協力お願いします。

ご自身で 活動表へ記入 して下さい。

ボランティアの活動への呼び掛けには、世話係や友の会ボランティア部を中心とした連絡体制を組んでまいります。その際には、電話やFAX、メール等により連絡していくこととなります。しかし、係の皆さんのご負担を考えると、一番良い方法は、現在ボランティア室に設置してある「活動表」へのボランティアの皆様ご自身での名前の記入がよいと考えています。活動表への記入は、氏名マグネットを準備してありますので、ご自分で今後の予定などを勘案し、また他のボランティアの皆さんの偏りなど全体のバランスを考えながら、ご記入願います。

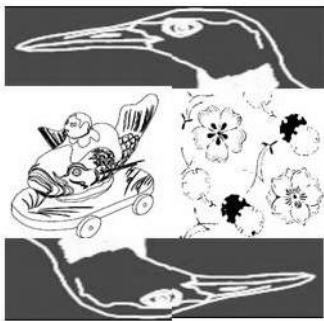
ボランティア室には、ご自身の学習などボランティア活動以外の来館の際にも必ずお立ち寄りください。

誘導 : 学年・学級単位で館内を観覧または、体験する際に、集団を崩さずに次の部屋に移動する場面が多くあります。子供たちが興味をそそられる仕掛けや展示資料に夢中になり、団体行動から逸れてしまいうようになります。そのような子供たちを、後ろのほうから合図・支援することと、先導役の担任の先生の補助をする活動です。

体験サポート : 小学校4年生の社会科の授業の中に、「昔のくらし」という内容があります。その中で子供たちが昔の道具を使って、実際に体験する中から、道具について理解したり、昔の人たちの知恵について考えていくような内容となっています。活動としては、子どもたちが体験する際に、道具についての簡単な解説と体験を補助し、指示していくようなサポート内容となります。実習室や民家前の広場を活用し、1つの学校に、2時間程度の補助を行う活動です。また、石膏のレプリカやおもちゃづくり等の博物館体験教室にも、ボランティアの皆さん全員のサポート体制をお願いします。〔博物館体験教室報告書〕参照)

ふれあい体験室 : ふれあい体験室は、新館の目玉の一つとして創設された常設展示となります。この部屋は、常に人手の必要な部屋となります。27のキットで構成されたハンズオン展示となっていますが、キットは遊びの中から、先人の知恵や豊かな自然に気づいていくような支援が必要となります。新設されたこの部屋の運営は、これから試行錯誤しながら作り上げていくこととなりますが、ボランティアの皆さんには、まずはご自分で遊んでみることから始めていただけたらと思います。

博物館ボランティア通信



学校から 要望のあるボランティア活動

ボランティアの皆さんの博物館活動へのご協力、ありがとうございます。おかげさまで、学校団体観覧の集中する11月の対応を乗り切ることができました。これから12月に12団体の予約が入っています。これからもご協力よろしくをお願いします。

今年度は、開館前に私たちが想定していたボランティアの活動の場面と、実際に運営してみて要望の多い活動とのズレがあると思っています。前回の通信の中でもお知らせしたように、学校側からは、体験サポートや誘導と

いった希望が多く、6月の公募の内容とは違う、誘導やサポートから活動を始めていただいている方が多くいらっしゃいます。

始まったばかりの新館におけるボランティア活動には、旧博物館での活動に加えて、ここならではの活動が出てくると思います。皆さんからのご意見も頂戴しながら、ますます活気のあるボランティア活動にしていきたいと考えています。これからもご協力よろしくお願いたします。

皆さんの車の駐車場



ボランティアの皆さんが活動に来られる際の駐車場は、博物館のアップルタウン側にある大型バス駐車場より奥の駐車場で、「指定駐車場」と書かれていないところに停めてください。

駐車の際には、博物館のスタンプを押印し、ボランティアと書いた紙を、車のフロント部分においてください。

なお、駐車場がいっぱいの際には、一般車両用の駐車場に停めることはできません。その際には、赤嶺か宮平まで連絡ください。

ボランティア名簿

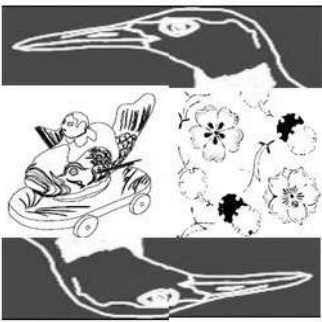
分野	番号	氏名
総合	5	安仁屋 真孝
	9	糸数 星子
	19	北川 佐和枝
	28	神 節子
	34	嶋袋 浩
	40	玉寄 恵子
	41	知念 晴子
	49	長田 由美子
	55	名嘉山 美智子
	66	普天間 典子
	74	宮城 隆
	78	宮良 友子
	92	米田 保孝
	94	大嶺 文子
	95	長嶺 峰子
	96	又吉 里美
自然	32	潮平 瑞代
	48	中島 邦雄
	53	中村 愛
	54	仲村 枝美子
	56	波平 恵子
人類	89	吉見 綾乃
	2	浅黄 真希
考古	61	服部 毅
	85	安村 重保
美	1	赤崎 義彦
	6	新崎 和子
	8	池宮 圭子
	10	上地 雅子
	14	小河内 京子
	17	神村 吉次
	25	久保 好子
	29	崎山 憲一
	33	芝山 迪宣
	38	立崎 昌子

分野	番号	氏名	
美	45	渡慶次 洋子	
	58	西銘 恵子	
	63	比嘉 武二	
	65	平田 由美	
	68	前田 英子	
	82	村山 創	
	87	屋良 博	
	工	3	安里 嗣雄
		13	大湾 菊子
		16	我那覇 留美
22		金城 きみ子	
27		源河 朝福	
31		座安 英明	
37		平良 光子	
42		當間 千ズ子	
歴史		43	當銘 直美
		47	友利 克美
	51	長嶺 昌代	
	59	新田 宗秀	
	60	野村 力	
	62	林 辰弥	
	77	宮里 佐代子	
	79	宮良 信男	
	81	村田 実	
	97	又吉 健	
民俗	15	我謝 美絵	
	20	木村 桃子	
	26	熊谷 フサ子	
	30	佐久原 好美	
	39	田場 勝子	
	44	徳嶺 洋子	
	57	西川 恵子	
	69	松川 潤一郎	
	70	松川 郁子	
	76	宮里 定典	

分野	番号	氏名	
民俗	80	宮良 百合子	
	83	銘苺 清美	
	84	屋敷名 智絵	
	88	屋良 真利子	
	90	与那嶺 彪	
	ふれあい	7	池原 興和
		11	上原 ひとみ
		18	喜久川 智子
		24	久場 洋子
		35	真貝 敬子
46		年本 末子	
50		仲地 フミ	
64		平楯 紀代子	
75		宮城 照美	
86		山城 多恵子	
体験学習	91	米田 恵子	
	93	渡辺 利恵	
	4	安座間 正子	
	12	大嶺 シゲ	
	21	喜屋武 禮子	
	23	眞志堅 直子	
	36	砂川 尚子	
	52	長嶺 有希	
	67	堀川 政子	
	71	松下 武	
友の会	72	松下 芳子	
	73	松野 均	
		星 雅彦	
		神谷 厚昭	
		新城 安哲	
		伊波 悦子	
		桃原 惟子	
		東恩納 道子	
		久手堅 愛子	
		桑江 千鶴子	

分野	番号	氏名
友の会		松田 賢徳
		松田 昌子
		村山 友江
		大山 京子
		大山 尚子
		上原 郁子
		香川 富士子
		古堅 友子
		泉川 寛
		稲福 政吉
		勝連 涼子
		川上 喜代子
		眞志堅 勝子
		宮城 光子
		大城 定子
		仲間 孝蔵
		赤嶺 成子
		松田 由紀子
		高里 良子
		仲盛 琴美
	宮国 昭男	
	宮里 春枝	
	原国 未子	
	山田 妙子	
	与嶺 達恵	
	野村 宏	
	安座間 勝枝	
	比嘉 三佐子	
	安里 寛子	
	糸数 良子	
	眞那原 久夫	
	上原 留美	
	日越 國昭	

博物館ボランティア通信



新年 明けまして おめでとうございます

沖縄県立博物館・美術館 一自らの来歴に自信と誇りを— 館長 牧野 浩隆
新年を迎えるにあたり、ごあいさつ申し上げます。



県民待望の「沖縄県立博物館・美術館」が2007年11月1日に開館しました。開館式典には、沖縄県知事、内閣府、文化庁をはじめ県内各界から多数の方々のご出席し、開館を祝すとともにその前途に大きな期待が寄せられました。

発展目覚ましい新都心に威容を現した地元沖縄の“グスク=城”をイメージした白亜のモニュメントは、県民が誇れる知的財産ないし“トポス=場”が備わったとの感を抱かせ、連日多数の来館者で賑わいを見せています。

展示物の充実さは、関係者のご協力により沖縄の独自性を発信するにふさわしく、県民の教育、学術及び文化等の発展に寄与することが期待されています。展示資料の内容については、ボランティアの皆さんもご承知のことと存じます。

博物館・美術館は、まさに沖縄の歴史、文化、芸術、自然、民俗等、国際性に富んだ特性を集約的に象徴する拠点であり、遅ればせながら、こうした内容豊かな知的社会資本が出現したことの意義は、計り知れないものがあります。

当然のことながら人材育成、生活福祉、情操教育、文化、交流等の向上に資すべく博物館・美術館ををどのように運営していくか、その理念が問われると考えます。

まずもって先人の残した偉業に敬意を表するとともに、沖縄の豊かな特性ないし個性の価値を認識し直し、県民が自らの来歴に自信と誇りを持って主体的に生きていく意識づくりに貢献することが重要であると認識しているところであります。

復帰後3度にわたる沖縄振興計画は、本土との“格差”を是正することに腐心してきました。しかし、現行の新計画は、遅れていることを強調するあまり、過去の歴史的経緯とも相乗しあって自己卑下を助長しかねない

“格差是正”政策をしりぞけ、沖縄の“優位性の発揮”へと理念を大転換した。一方、道州制さえ視野に入れた地方分権の時代潮流は、従来の中央一極集中の価値観を廃止、地方が独自の特性や優位性を活用して主体的に生きていくことを求めています。

“地方の独自性”といえは、国内において“琉球王国”をはじめ多彩の歴史的営為を背景に持つ沖縄の国際性に富んだ諸々の特性は、異彩を放っているといえます。昨今“沖縄ブーム”が注目されていますが、その背景には、これからは地方の特異性や個性こそが“力”であるという時代潮流があります。また、一過性のブームに終わらせず、取組如何によっては、地方の時代は“沖縄の時代”になりうるとの気概さえ語られるようになったことの意義を大切にすべきでしょう。

望むらくは、感受性の涵養や沖縄の独自性の価値を再認識し、自らの来歴に自信と誇りを持って主体的に生きていく意識形成に資すべく、一人でも多くの方々に来館していただくことです。

一方、先の大戦において数多の文化財等を喪失した現実を前にして、諸々の歴史的資料を収集していくことの困難さや、特別企画展には莫大な財政的負担を要するとの懸念があることは否めません。

しかし、県立の博物館・美術館は“県民の知的共有財産”であり、県民が楽しみつつ学習することにより自らの来歴に自信と誇りを持ち、主体的に生きていく意識形成の一大拠点になりうるとの認識のもと、県民が一体となって育てていく態勢づくりに微力を投入していこうと決意を新たにしているところであります。

ボランティアの皆さんには、本年も博物館・美術館のため、ご協力を賜りますようお願いいたします。

今年の干支は、ネズミ！ ケナガネズミ [天然記念物]



日本に生息する野ネズミの中でもっとも大きく、ほかに似た種類もない特異な存在です。南西諸島にしか分布しておらず、学術的にも貴重で天然記念物に指定されています。

体長は20~30cmで、長さ25~35cmと胴体より長く太いしっぽをもっています。夜行性で、昼間は大木のうろ(ほら穴)に潜み、夕方から活動を開始します。うろの中には枯れ葉や枯れ枝を運び込んで、直径30cmほどの丸い巣を作ります。野外ではシイ・カシの実を食べることは知られていますが、飼育の結果、雑食性だとされています。森林伐採などにより、個体数は激減しているといわれています。

博物館ボランティア通信

3月6日(木)6時半~

博物館講座室にて

ボランティア全体会開催！！

博物館ボランティアのみなさん、日々の活動お疲れ様です。現在、博物館では、児童生徒が博物館見学の際によりよく学べるような学習用ノート：『博物館学習ノート』（ワークシート）を作成しているところです。今回の全体会では、その試案段階にあるワークシートをボランティアの皆さんに解いてもらい、使いやすさや修正点などをチェックしていただきたいと思います。また、新年度に向けての、更新についてなどの話も行う予定です。出来るだけ多くの方の参加を、お願いいたします。

モニタリング調査協力をお願いします

3月11日(火)午後2時20分から

今月2月1日に行われた『中学生のための 博物館学習ノート』の第1回モニタリングの際には、多くの方に参加頂きありがとうございました。美里中学校1年生(256名)、具志頭中学校2年生(132名)の2校、総数380名余りの生徒の対応となり、どうなる事かと心配しておりましたが、皆さんの協力を得て無事終える事ができ、いいモニタリングが出来たと思います。ありがとうございます。

さて、第2回目のモニタリングを来る**3月11日(火)の午後2時20分**から行います。今回は博物館近くの**安岡中学校1年生173名(5クラス)**が、モニタリングに協力してもらえることになりました。生徒達がより充実した見学が出来る様、**誘導と各分野二名づつ**の参加協力をお願いいたします。参加希望の方は、各班の世話係の方へ連絡をお願いします。事前打ち合わせは全体会終了後に行いたいと思います。



ボランティア活動頑張っています p(^o^)

博物館が開館して、もう4ヶ月になろうとしています。その間、延べ701人のボランティアの参加がありました。ご協力ありがとうございます。1月末現在、下見・プログラムで対応した学校は、小学校40校、中学校7校、特別支援学校9校になります。博物館へは子供たちの書いたお礼の手紙や新聞などが届いています。とても嬉しくなりますね。ボランティア室に張り出しますので、ぜひ見て下さい！

また、ふれあい体験室もボランティア参加者が少ない中、毎週の様に参加している方々がいます。お疲れ様です。午後や週末は来館者も多いため、少なくとも2名程いるといいなと、感じています。学校対応が少ない時期でもあります。気を張らずに、ふれあい体験室へ来て、来館者とのふれあいを楽しんでください！博物館で一番の人気スポットですよ！！

↑ 沖縄盲学校の生徒への体験サポート
← 小学校4年生民具体験のサポート



~ 新収蔵品展開催中 ~

2月13日(火)から博物館新収蔵品展を、博物館3階企画展示室で開催しています。H17年度からH18年度にかけて寄贈、購入した資料約670点が展示されています。

3月9日まで！！



ふれあい体験室

1. ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示展開される“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や屋外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併わせもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感を通して体験できる操作や組立てるなどの遊びを通して学ぶことで、展示資料を深く学ぶことが出来ます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてがふれることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料にふれあいことで目的が達成されるものとして準備されています。来館者が資料に主体的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“「沖縄の自然」や「先祖の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

基本的に小学校中学年（三年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

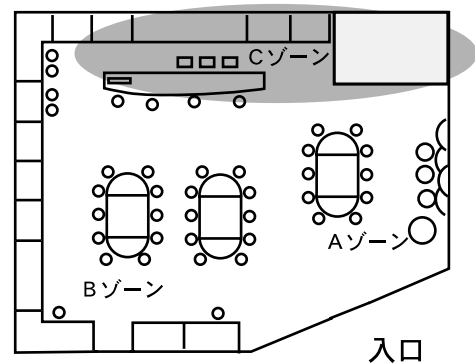
(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用する事を基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室内では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

キットの分類

キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	<ul style="list-style-type: none"> 直接的に（一見して）内容が分かる。（見る、触る 等） 安全性、耐久性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 来館者が自由に出し入れ出来る。 *来館者への手助けは少ない。
グループ B	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な操作で内容が分かる。（聞く、比べる、開ける、押す 等） 安全性がある程度確保されている。 耐久性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 来館者は自由に出し入れできる。来館者によっては、手助けが必要な場合もある。
グループ C	<ul style="list-style-type: none"> 作業を通して仕組みや内容が分かる。（組み立てる、作る、分類する 等） 細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 破損、磨耗しやすい等、耐久性が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフを介してキットを受け渡し、介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者への手助けが必要な場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



2. 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル		
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ？	1	サインを見逃すな！	自然史	
			2	小さな世界 ~小さないのちの大きな仕事~		
			3	耳をすませば		
			4	この骨だれの？		
			5	サンゴと生きる		
		地史	自然のすがた	6		いろいろなタネ
				7		いろいろな木と草
				8		いろいろな石と砂
			歴史のなぞ	地下にねむる		9
	10				化石 ~生きていた証~	
	11				港川人	
	食の知恵			12	土層と出土品からわかること	
				13	石で築く	
				14	ヌチグスイ	
	人々のくらし	食の知恵	15	イノー ~海の食料庫~	民俗	
			16	御三味 (ウサンミ)		
		生活のくふう	17	いろいろな道具		
		沖縄のコトバ	18	島のコトバ		
		シマの心	19	いろいろな玩具	民俗	
			20	いろいろな楽器		
		色のひみつ・形のふしぎ	21	衣からわかること	美術工芸	
			22	焼物 ~かたちのわけ~		
			23	漆 ~飾るたのしみ~		
		国のかたち	国のかたち	24	印かんってなあに？	歴史
				25	島のかたち	
				26	記録のくふう	
				27	国々のおつきあい	



18 島々のコトバ



13 石で築く



1 サインを見逃すな！



17 いろいろな道具



22 焼物



25 島のかたち(コチズエホン)



16 御三味 (ウサンミ)

3. ふれあい体験室の利用状況

今年度は、ふれあい体験室の初めての活動にあたります。常駐のスタッフ1人と、博物館ボランティアの皆さんで、来館者の方々とのふれあいを楽しみながら活動してきました。

ふれあい体験室は、今までの博物館になかった施設であり、また無料であるということもあるので、小学生を始めとする多くの県民の方々や、観光客の方々に利用いただいています。学校団体を受け入れることは出来ませんが、要望がある場合（要調整）には、体験キットを別の部屋へ移動しての利用も行ってきました。



ふれあい体験室外観



むかしは、ユッカノヒにね……



これは、ここに積むんじゃないの!?



太鼓、楽しいね～



このキットは、重箱だよ。何が入っているかな？



カンカラ三線もいい音でるね！

(三段目写真：沖縄県立盲学校・講座室にて)

沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、11月の開館に合わせて県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で、「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」を作成を各小中学校へ依頼しました。

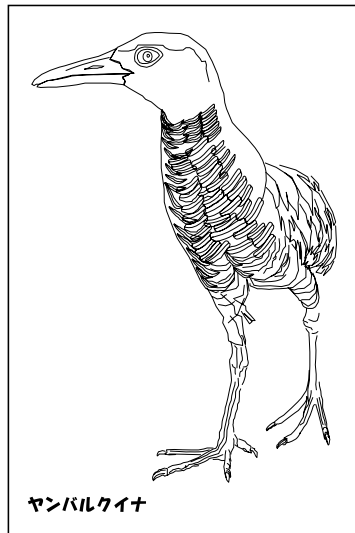
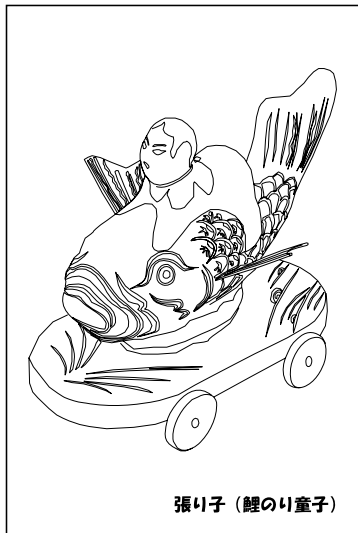
「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で作成し、裏面に校長印を押印する。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄を基本とするが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマスタ目があり来館の際にスタンプが押印出来る形になっています。

利用の対象は、県内の小中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して頂くことになります。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどして、配慮を行っています。

しかし、開館後100校以上の学校が来館していますが、フリーパスの存在を把握している教員が少なく、下見の都度に説明をしなければならない状況でした。また、フリーパスの情報を持っている父母からは、どこで発行するのか等の問い合わせもあり、学校側に周知されていない、もっと広報をすべきだという意見も寄せられました。

開館後、学校の校長会、教頭会で度々「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」について、説明を行っているが、全県の教員や県民に周知されるまでには、まだまだアピールしていく必要があると思われます。

【表面】



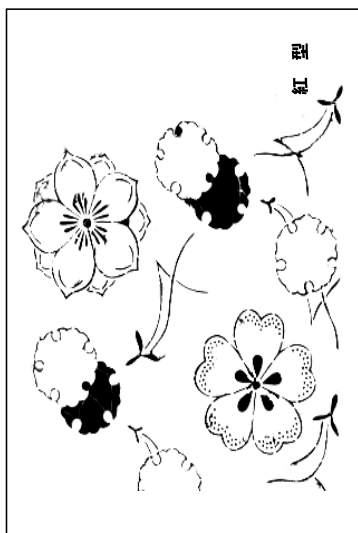
【裏面】

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 沖繩 博 学校名 沖美小学校 校長印

スタート!!				
				10
				ちょうど 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!!



沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 沖繩 博 学校名 沖美中学校 校長印

スタート!!				
				10
				ちょうど 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!!

「沖縄県立博物館・美術館のフリーパスをつくろう！」実施要領

1 目的

- (1) 平成19年11月1日に開館する沖縄県立博物館・美術館について、県内の小中学生が知る機会とする。
- (2) フリーパスを自ら作成することで、同館を身近に感じてもらう。
- (3) 県内の小中学生は、開館時より無料入館となるが、県内と県外の児童生徒をパスを提示により確認することができる。

2 内容

沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄を基本とし、以下の仕様に合わせて、沖縄県立博物館・美術館をイメージする表紙のパスを作成する。

3 作成方法

- (1) パスのサイズは8 cm×12cmを基本とし、画用紙等の厚紙を使用する。
- (2) 表紙に使う図柄は、自らデザインした形を表現するか、もしくは、別添サンプルの図柄を用いて、内部の彩色を工夫したものとする。
- (3) 裏面には、別添サンプルの様式のとおり、来館時押印用のマス目を作成すること。
- (4) サンプル図柄やマス目はコピーして使ってもかまいません。
- (5) パスの裏面には学校長の公印を捺印して下さい。

4 対象

沖縄県内の小中学校の児童生徒

5 実施方法

- (1) 県教育庁文化施設建設室より義務教育課・文化課の協力を得て、県教育長から県内小中学校へ「フリーパス」の実施を知らせ、協力を依頼する。
- (2) 11月以降に来館した際に、博物館・美術館の受付案内にて、持参したパスに押印する。遠距離や離島地域の児童生徒については、押印の数を調整の上、配慮する。
- (3) パスをすべて(30回)使い切った児童生徒に対しては褒賞を準備する。
- (4) パスをすべて使い切った場合は、上記の要領で新たにパスを作成する。

平成 19 年 10 月 5 日

各 小 中 学 校 長 殿

沖縄県教育委員会
教育長 仲 村 守 和
[公印省略]

「沖縄県立博物館・美術館のフリーパスをつくろう！」の実施について(依頼)

平素より文化施設建設事業へのご協力とご支援に感謝申し上げます。

みだしのことについて、平成19年11月1日に開館する沖縄県立博物館・美術館は、県内の小中学生が常設展示を観覧する場合は条例により無料とされています。このことについて、受付窓口で県内と県外の児童生徒を識別する方法として「沖縄県立博物館・美術館のフリーパスをつくろう！」を計画しております。

児童生徒のみなさんが自らフリーパスをつくることにより、博物館・美術館を身近に感じてもらい、かつ観覧への動機づけとなることを期待し、実施するものです。

つきましては、業務多忙な中ではありますが、別添の実施要領ならびにサンプルをご参照の上、児童生徒のみなさんに本件の内容について周知をお願いするとともに、フリーパス作成の指導等についてご協力をよろしくお願い申し上げます。

記

1 作成時期

観覧の予定にあわせて、随時、作成を実施して下さい。

2 作成方法

依頼文書に添付してある実施要領ならびにサンプル資料にもとづいて作成して下さい。

「沖縄県立博物館・美術館のフリーパスをつくろう！」実施要領
別添サンプル資料 1・2 (フリーパス表紙サンプル図柄及び裏面仕様)

照 会 先

沖縄県教育庁文化施設建設室 (10月31日まで)
沖縄県立博物館・美術館 (11月1日以降)
代表 TEL 098 - 941 - 8200
FAX 098 - 941 - 3530

その他

1. 開館記念展関連事業「私が考える港川人」図画作品募集

- (1) 目的 「港川人」に関わる県内児童・生徒の図画作品を募集・展示することで、新館開館記念展「人類の旅 - 港川人の来た道 - 」について児童生徒に興味・関心を持たせ、一般県民への啓蒙・宣伝を図ることを目的とする。
- (2) 主催 沖縄県教育委員会
- (3) 共催 沖縄博物館友の会（予定）
- (4) 日程
 - 募集期間 平成19年7月中旬～9月28日（金）
 - 作品審査 平成19年10月上旬
 - 作品展示 平成19年11月1日～平成20年1月20日（日）（作品は展示替えを予定している。）
 - 表彰式 平成19年11月上旬
会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂
- (5) 応募資格 県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒
- (6) 応募方法
 - 応募票（様式1）に必要事項を記入し、作品の裏面右下に貼付してください。
 - 学校単位で応募作品をとりまとめ、応募一覧表（様式2）を添えて、送付してください。
 - 締切：平成19年9月28日（金）
 - 送付先：〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
教育庁文化施設建設室・博物館班（沖縄県立博物館・美術館）赤嶺・知念
TEL (098) 851-5401 FAX (098) 941-3650
- (7) 作品制作について
 - 作品のサイズ 市販の画用紙B3版（38cm×54cm）、または四ツ切サイズ（40×55cm）。
たて置き、よこ置きは自由です。
 - 画材 自由（クレヨン、パス類、水彩油彩絵具、ポスターカラー等いずれも可）
 - 題材「私が考える港川人」
 - 作品は、港川人についての生活の様子や顔のスケッチなどをテーマにしたものです。
 - 作品中には文字や標語はご遠慮ください。
 - 写真や図版の絵は参考程度にとどめて下さい。（参考にした資料は必ず明記する。）
 - 作品は未発表のものに限ります。
- (8) 審査及び表彰
 - 小学校1・2年、小学校3・4年、小学校5・6年、中学校、高等学校の5部門に分けて審査を行います。
 - 最優秀賞、優秀賞、佳作、入選を選出します。
 - 入賞者には賞状を贈呈します。
 - 審査結果は、各学校あてに10月中旬に通知します。
 - 表彰式は11月上旬を予定しています。
- (9) 作品の活用・返却など
 - 作品は開館記念展「人類の旅 - 港川人の来た道 - 」期間中の展示等に活用します。
 - 応募作品は、本事業の趣旨に沿って活用します。
 - 作品の返却希望の場合は2月中旬に受け取りに来て下さい。
- (10) 参考資料
 - 港川人の特徴
 - 男性
 - ・身長は、150～155cmくらいで、肩幅は割とせまく、腕は細いが、手は比較的大きかったようです。
 - ・顔は縄文人的な特徴を持っており、はばが広く、高さが低く、ほほはやや出っ張り下あごは頑丈で、出っ歯ではありません。
 - ・眉の部分は、隆起していますが、鼻は付根がくぼんでいるので、現代人より彫りが深かったようです。
 - ・ふくらはぎは太く、短足だったようですが、かかとや足の指などは身長割には大きかったようです。

「私が考える港川人」 図画作品審査会要項

目的

「私が考える港川人」図画作品募集要項に基づいて作品審査会を実施する。新館開館記念展の趣旨に添って審査し、入賞作品を選ぶ。

日時 平成19年10月23日（火）13：00～14：30

場所 沖縄県立博物館・美術館 講座室

審査員

山崎 真治（文化施設建設室 博物館班）

A 文化施設建設室 美術館班

星 雅彦（沖縄博物館友の会会長）

B（文化の杜）

審査補助

藤田 祐樹（文化施設建設室 博物館班）

赤嶺 敏（文化施設建設室 博物館班）

宮平 真由美（文化施設建設室 博物館班）

池宮城 啓子（沖縄博物館友の会 事務局）

新城 安哲（沖縄博物館友の会 事務局長）

審査部門と入賞内訳

小学校低学年（最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作4点、入選7点）

小学校中学年（最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作4点、入選7点）

小学校高学年（最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作4点、入選7点）

中学校（最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作4点、入選7点）

高等学校（最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作4点、入選7点）

学校賞（応募数の多い学校 2校）

計 最優秀賞5点、優秀賞10点、佳作20点、入選35点

ただし、応募状況によって変更が必要な場合は、文化施設建設室と審査員の合議により対応する。

審査の留意点

顔立ちや体つきがよく表現されている。

くらしぶりがよく表現されている。

独自性・独創性に富んでいる。

沖縄らしさが表れている。

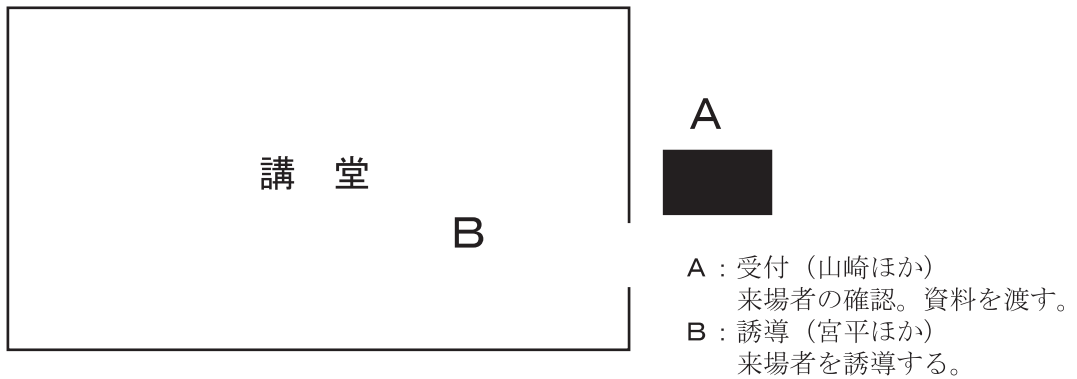
絵画的に優れている。

審査風景

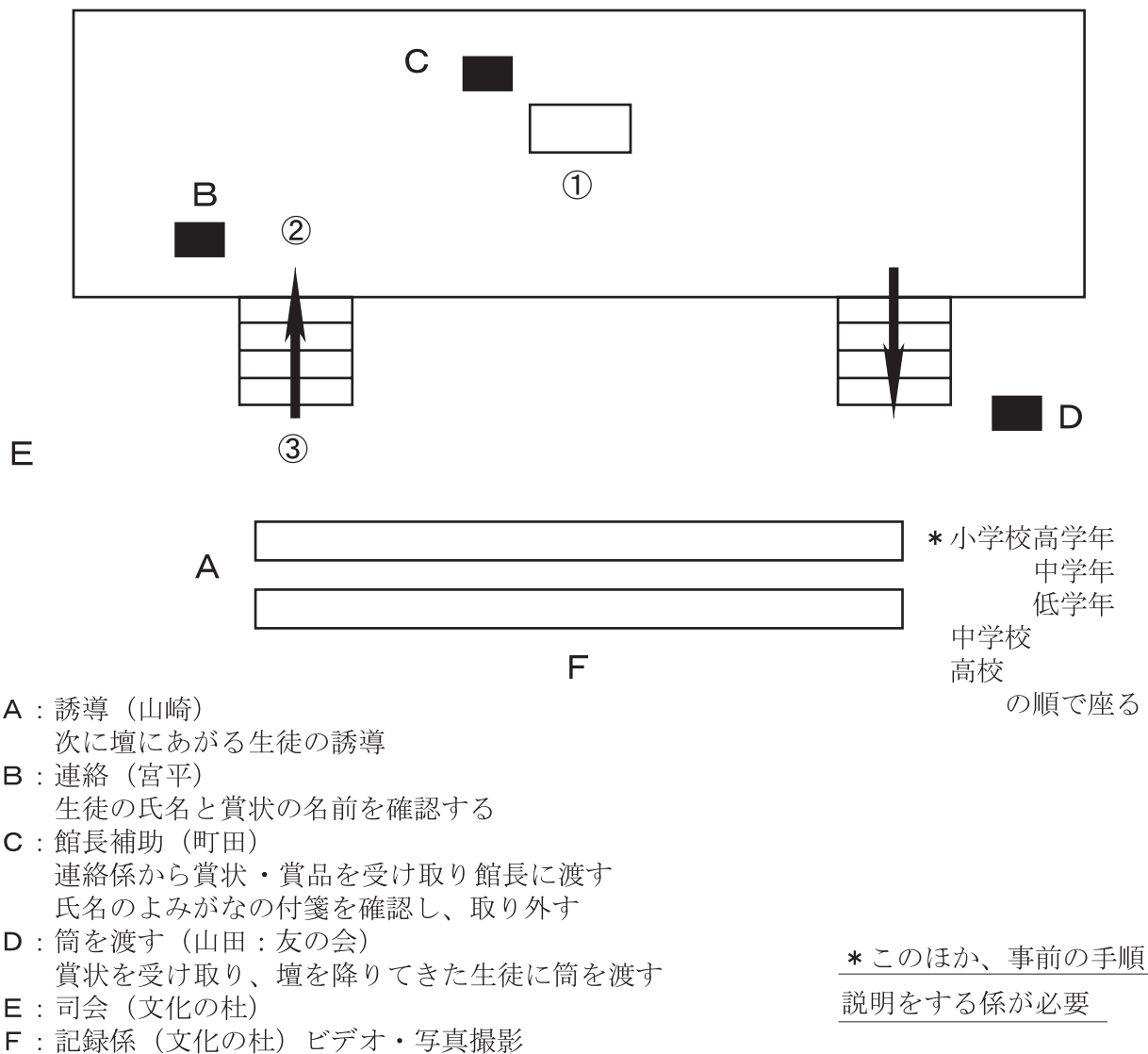


「私が考える港川人」表彰式人員配置

《受付時》



《式典時》



- A : 誘導 (山崎)
次に壇にあがる生徒の誘導
- B : 連絡 (宮平)
生徒の氏名と賞状の名前を確認する
- C : 館長補助 (町田)
連絡係から賞状・賞品を受け取り館長に渡す
氏名のよみがなの付箋を確認し、取り外す
- D : 筒を渡す (山田: 友の会)
賞状を受け取り、壇を降りてきた生徒に筒を渡す
- E : 司会 (文化の杜)
- F : 記録係 (文化の杜) ビデオ・写真撮影

準備品目

看板用見出し (宮平作成)、式次第 (配付用: 山崎作成)、賞状 (山崎)、筒 (山崎)、名簿 (山崎)
当日参加者への無料観覧券 (文化の杜)、カメラ (赤嶺)、賞品 (図録は山崎、他は文化の杜)

学校別の応募者数

八重瀬町立新城小学校	7	石垣市立名蔵中学校	2
豊見城市立とよみ小学校	31	沖縄市立宮里中学校	3
那覇市立石嶺小学校	3	那覇市立金城中学校	4
那覇市立識名小学校	3	八重瀬町立具志頭中学校	3
那覇市立天妃小学校	2	八重瀬町立東風平中学校	2
南城市立玉城小学校	1	県立浦添工業高校	6
八重瀬町立具志頭小学校	34	県立コザ高校	5
石垣市立新川小学校	64	県立那覇高校	4
沖縄カトリック小学校	1	県立西原高校	2
		県立北中城高校	1
		合計	178



山城 加奈恵（沖縄県立西原高等学校1年）



親泊 将央（八重瀬町立新城小学校6年）



金城 しおり（八重瀬町立具志頭中学校1年）



仲本 せいご（那覇市立石嶺小学校2年）



金城 直行（八重瀬町立具志頭小学校4年）

最優秀賞受賞作品



表彰式の様子と受賞者集合写真



絵画展示風景

2. 博物館開館記念ワークショップ

ワラザン&マーニ細工

11月3日に開館記念のイベントとして、ワラザン・マーニ細工の実演と製作を博物館実習室で行いました。講師には栗田文子氏（ワラザン）と、金城珍章氏（マーニ細工）を招へいし、博物館の「ふれあい体験室」の展示資料の提供などにご協力をいただいている両氏に、ボランティアで実演指導をしていただきました。

ワラザン、マーニ細工は「ふれあい体験室」で展示もされており、講師による製作実演を見ながら、自ら作ることで、琉球王国時代から伝わる庶民の数の記録法や、身近な材料を使ったおもちゃについて学習する機会となりました。

参加者は、ワラをなうのに手こずりながらワラザンを作製したり、マーニで馬グァーやバツタを作ったりと、親子で楽しんだ様子でした。



これをこうやってね



栗田先生とパチリ!!



馬グァー 仕上げるぞぉー



金城先生 これでもいいの？

3. 資料貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出しています。貸し出し可能な資料は、黒糖づくり道具、豆腐づくり道具、民具等です。教育普及資料の活用について、学芸員及びボランティアが支援します。積極的に活用してください。

- (1) 団体名：糸満市立兼城小学校
行事名：宿泊学習
貸出期間：平成19年5月22日～5月25日
貸出資料：火起こし器

- (2) 団体名：糸満市立兼城小学校
行事名：親子集会
貸出期間：平成19年9月14日～10月1日
貸出資料：豆腐作り用具（石臼・アジマー・タライ）

- (3) 団体名：トータルメディア
行事名：新館展示グラフィック作成
貸出期間：平成19年9月19日～9月25日
貸出資料：豆腐作り用具（石臼・アジマー・タライ）

- (4) 団体名：那覇市立古蔵小学校
行事名：昔の道具を体験しよう
貸出期間：平成19年10月12日～10月19日
貸出資料：クバガサ・オーダー・はがま 他

- (5) 団体名：沖縄市立高原小学校
行事名：とうふを作ろう
貸出期間：平成19年12月12日～12月19日
貸出資料：豆腐作り用具（石臼・アジマー・タライ）

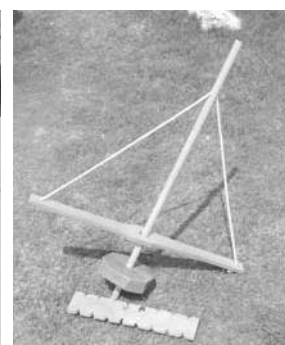
- (6) 団体名：沖縄県立糸満青年の家
行事名：親子黒糖づくり
貸出期間：平成20年1月26日～1月30日
貸出資料：砂糖きび絞り機・シンメー鍋・攪拌棒 他



石うす



さとうきび絞り機



火起こし器

平成19年度

博物館教育普及活動

編集・発行	沖縄県立博物館・美術館 〒900 - 0006 沖縄県那覇市おもろまち 3 - 1 - 1 Tel (098) 941 - 8200 Fax (098) 941 - 2392
印刷	株式会社 東洋企画印刷 〒901 - 0305 沖縄県糸満市西崎町4 - 21 - 5 Tel (098) 995 - 4444